

令和7年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○ 令和7年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿	… P 1
○ 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱	… P 2
○ 【資料1】令和6年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要	… P 3
○ 【資料2】伊勢志摩地域の県立高等学校について(令和7年度)	… P 10
○ 【資料3】伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況	… P 21
○ 【資料4】伊勢志摩地域中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)	… P 23
○ 【資料5】伊勢志摩地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測	… P 24
○ 【資料6】県立高等学校(全日制)の学級数の状況(令和8年度)	… P 25
○ 【資料7】伊勢志摩地域および松阪地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)	… P 26
○ 【資料8】令和7年度の協議について	… P 27
【参考資料①】伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について	… P 29
【参考資料②】令和5年度の協議(今後の学びと配置のあり方について)	… P 34
【参考資料③】次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて	… P 37
○ 【資料9】市町別の中学校卒業生進学先の状況	… P 38
○ 【資料10】伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)の交通手段等	… P 39
○ 【資料11】伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)のスクールポリシー	… P 41
○ 【資料12】伊勢志摩地域の県立高校(全日制)卒業生の進路状況	… P 46
○ 【資料13】学校規模と教育環境について	… P 47
○ 【資料14】これまでの県立高等学校(全日制)の再編について	… P 49
○ 【資料15】令和22年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)の 総学級数と当協議会の協議について	… P 50
○ 【資料16】令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ(案)	… P 51

令和7年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

N o		所属及び名前	本年度 出席委員	新・継
1	学識経験者	三重大学 教育学部 教授 田中 伸明	○	継続
2	地域有識者	伊勢商工会議所 常務理事 中本 龍二	○	新
3		鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○	継続
4		志摩市商工会 常務理事 西尾 新	○	新
5		度会町商工会 事務局長 山本 雄紀	○	新
6	市町教育委員会 教育長	伊勢市教育委員会 教育長 小林 貴法	○	新
7		鳥羽市教育委員会 教育長 岩本 和也	○	新
8		志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○	継続
9		度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○	継続
10		南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○	継続
11	県立高等学校長代表	県立伊勢工業高等学校 校長 奥山 敦弘	○	新
12	小中学校長代表	伊勢市立二見中学校 校長 中西 祐一	—	新
13		鳥羽市立鳥羽東中学校 校長 山下 幸也	○	新
14		志摩市立磯部中学校 校長 助田 宏樹	—	新
15		大紀町立大宮中学校 校長 作野 順也	○	新
16	小中学校P T A代表	伊勢市P T A連合会 代表 西城 宏樹	○	新
17		鳥羽市P T A連合会 代表 東谷 俊介	○	新
18		志摩市P T A連合会 代表 西世古 真一	○	新
19		度会郡P T A連絡協議会 代表 山上 美穂	○	新
20	高等学校P T A代表	南勢地区高等学校P T A連合会 代表 尾崎 佳奈	○	新
21	小中学校教職員代表	伊勢市立修道小学校 教諭 黒坂 泰之	○	新
22		大紀町立大宮中学校 教諭 糸川 明道	○	新
23	高等学校教職員代表	県立伊勢まなび高等学校 教諭 大西 孝明	○	新

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、伊勢志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の伊勢志摩地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 伊勢志摩地域の県立高等学校活性化の方策に関すること
- (3) 施設・設備に関すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 6月28日から施行する。

この要綱は平成29年 8月 1日から施行する。

令和 6 年度第 3 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 7 年 2 月 7 日（金） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 県伊勢庁舎 401 会議室
- 3 概要

当地域における 1 学年あたりの総学級数が 12～15 学級程度となる 15 年先を見据え、「伊勢市内の高等学校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点をふまえ、当地域全体の県立高等学校の配置のあり方について、協議しました。

主な意見は次のとおりです。

<主な意見>

（学校規模について）

- 15 年先を見据えると、学級編制基準が改善されたとしても、学校の統合は避けられない。
- 当地域には大学進学と就職に対応した高校があり、農業・工業・商業など、専門学科のバランスもよいことから、できるだけ地域内での再編を考えたい。
- 「部活動の活性化の観点から、4 学級以上が望ましい」とあるが、生徒数がさらに減少すると、その維持も難しくなる。しかし、合同チームの編成も想定すれば、互いの学校のグラウンドがうまく活用できるといった効果も期待できるのではないかな。
- 工業高校と商業高校の統合案も出ているが、工業高校の施設設備の点で難しい部分もあるのではないかな。
- 「進学ニーズに対応する普通科高校は、1 学年 6 学級を下回らない」や「部活動の活性化の観点から、4 学級以上が望ましい」とあるが、アンケートにおける希望する学校規模で最も多い「3～4 学級」と一致しないことから、改めて協議会としての整理が必要である。
- 令和 15 年度までには、伊勢高校と宇治山田高校の統合や、普通科高校と専門高校の統合といった、何らかの大きな再編が必要になるのではないかな。ただ、専門高校の再編にあたっては、現場の声をしっかりと聞く必要がある。
- 小規模校が統合しても、手厚い指導で個別学習や学び直しができ、多様な子どもたちが前向きになれるような学校の配置を望む。また、そのような学校は、総学級数の 15 学級とは別枠であってほしい。
- 小規模校には小規模校の魅力があると思うが、一人ひとりに寄り添った丁寧な指導などは、大規模校ではできないということはない。それぞれの魅力を両立していく視点での議論があってよい。
- 教職員数が減っている中であって、ICT を活用して拠点校から授業を配信し、合同授業を行うなど、やれることは何でもやっていくという覚悟が必要である。

（学びの選択肢について）

- 将来、進学か就職か明確に決まっていない中学生も多いことから、1 つの学校の中に多くの選択肢があることは魅力の 1 つである。こうした観点から、現場の声を尊重しながら、普通科高校と専門高校の統合を検討していてもよい。
- 発達障がいを含む特別な支援を必要とする子どもが増加傾向にある中、きめ細かな指導・丁寧な指導を求める保護者の声もふまえ、引き続き県立高校が、そういった生徒の選択肢の一つとなるよう、検討を進めてほしい。
- 将来なりたいものが決まっていない中学生も多く、中学校現場では、将来、生徒が社会的・経済的に自立し、幸せを感じられるよう、丁寧な指導にあたっている。

(通学の利便性の視点から)

- 再編の議論にあたっては、志願者数だけでなく、通学距離や時間などを含めた地理的条件も大切な視点であり、具体的には、志摩高校のように大部分の生徒が志摩市や南伊勢町から通学している高校を存続させていく、という考え方も必要ではないか。
- 通学が困難となる地域の高校は、拠点校へのバス移動や遠隔授業などを組み合わせた校舎制の学校とすることにより、交友関係も含めた子どもたちのニーズに応えられる高校となるのではないか。
- 15年先には、遠距離通学の解消のためにも、宿舎の確保や、そのための制度の拡充が必要である。
- 校舎の老朽化が進んでいるので、多様なニーズに応える校舎を建てることを検討してはどうか。ただし、どこに建てたとしても、遠距離通学となる生徒は必ず存在することとなるので、通学距離や時間の課題とは分けて議論する必要がある。

(高校の特色化・魅力化と情報発信等について)

- 学びと配置のあり方を議論するにあたっては、1学級40人の入学定員を満たすことよりも、その高校でどのような教育を提供し、どのような子どもたちを育むかといった学校の特色化・魅力化を高めることに重点を置くことのほうが大切である。
- 当地域の高校には、松阪地域からも多くの生徒が入学していることから、小規模校にも入学してもらえよう、特色ある授業づくりなどに一層取り組む必要があるのではないか。
- コロナ禍以降、不登校の児童生徒が増加傾向にあるのは、人間関係が希薄化したことが一因であると考えている。多様な人と出会い、意見の相違を乗り越えながら取り組むことができる場が学校であり、部活動を含め、対面で学校生活を送ることの重要性を改めて感じる。
- 15年先には今ある学科を再編せざるを得ないが、育てたい子どもたちの姿を第一に、柔軟に対応して新しい環境をつくり上げれば、生徒も教員も意欲が高まるのではないか。例えば、明野高校の農場の一部に、普通科もある学校を新築するなどのアイデアがあってもよい。

(学級編制基準・教員配置について)

- 小中学校で35人学級を進めていこうという動きがあり、高校についても、中学校卒業生数が減少する中で、40人学級では多様なニーズに応えるのが難しくなるのであれば、35人や30人学級への学級編制基準の引下げを国に要望していったらどうか。
- 当地域の多様な学科のバランスは維持したいが、15年先の総学級数が12～15学級と想定すると、その維持は非常に難しい。その解消のためにも、学級編制基準の改善は強く要望したい。
- 例えば、機械科・建築科・電気科など、工業科の中でもそれぞれに専門的な魅力があるように、生徒数が減ったとしても、それぞれの学科に必要性がある。学科の数も含めて、多様なニーズに応えるために、学級編制基準や教員の配置基準の改善が必要である。
- いずれ統合となることは覚悟しないといけないが、生徒数が減ったとしても、教職員数を維持し、小規模校ならではの丁寧な指導を望む声にも応えていければと思う。

(入試制度・私立高校との関係について)

- 公立高校を受検せずに、推薦入試や専願入試を利用して、私立高校に入学する生徒が増えてきている。やはり、保護者や中学生が通いたいと思えるような魅力的な高校がたくさんあればよいと感じている。
- 前期選抜では、400人の募集定員に対し約800人が志願していることから、入試制度を見直すことで、定員割れを少しでも解消できるのではないか。
- 前期選抜が終わって、後期選抜までに私立高校への入学を決めてしまう傾向がある。高校の授業料無償化の議論も進む中で、県立高校の特色化・魅力化をより一層高める方策を考えていく必要がある。
- 県立高校と私立高校が共存しながら、地域の子どもたちに多様な学びを提供できればよいと考えている。こうした観点からも、私立高校のどこに魅力を感じて選んでいるのかが分かる資料などがあるよい。
- 当地域の子どもたちの学びを第一に議論を進めていくのであれば、県立高校だけでなく、私立高校の関係者が委員として協議会に参加してもよいのではないか。

(県立高校の学びと配置のあり方について)

- 15年先を見据えると、かなり思い切った再編が必要であると考えられるが、国が示す学級編制や教員配置の基準が大きく変われば、総学級数を見直すことも想定されることから、多様な子どもたちの学びに応じた、誰一人取り残さない教育を目指しながら、総学級数の想定幅を広げるなど柔軟に考えていく必要がある。
- 15年先の学校に期待される社会的役割やめざす学校像、特色・魅力ある教育の実現に向け、そこから逆算して、学級減への対応を考えることが大切である。
- 生徒数が減っても、子どもたちがなりたい業種や職種が減るわけではないので、できる限り選択肢を残すことを大切にして、検討を進めていった方がよい。
- 当地域は広いので、アンケートで約8割が回答した「許容できる通学時間60分以内」を実現しようとする、多くの学校を配置しないといけなくなる。一方で、総学級数が減少する中で、「進学ニーズに対応する普通科高校は、1学年6学級を下回らない」や「部活動の活性化の観点から1学年4学級以上が望ましい」といった学校規模を維持することとは相反するため、これまで以上にICTの活用や部活動の合同チームの編成などに取り組まないと、その方針に答えられなくなるのではないか。
- 志摩市にある2校は、地域と連携して地域課題の解決に取り組んでおり、地域の高校としてあるべき姿だと感じる。再編の議論と矛盾するが、こうした学校は、簡単にはなくさないでほしい。
- 再編する際は、校舎制を採用することも考えられるが、部員が校舎間を移動する必要があるなどの課題もあり、部活動の活性化を考える上では、社会体育のあり方も見直すべきである。
- 1学級あたりの定員が引下げられ、15年先の総学級数の見込みが増えたとしても、中学校卒業者の見込み人数は大きく変わるわけではない。議論で大切なことは、このことを前提に、広域である当地域の中で子どもたちにどのような教育を提供することで、よりよい高校の再編に近づけられるかの視点をもつことである。

令和6年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和6年10月22日（火）19時00分から21時00分まで

2 場所 県伊勢庁舎 401会議室

3 概要

令和5年度に当協議会がまとめた「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」をふまえ、当地域で令和13～15年度頃までに想定される断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高等学校の再編」を論点として協議しました。

主な意見は次のとおりです。

<主な意見>

（協議を進める上で大切にしたいことや、必要な視点について）

- 子どもたちの学びを維持するという視点を第一に議論を進めることが大切である。
- 統合は、合理化のためではなく、子どもたちにとって魅力のある学校にしていけることが大切である。
- 当地域の子どもたちが他地域の高校や私立高校を選択肢の一つとするならば、交通手段や下宿などのケアを含め、経済的に厳しい家庭のことも念頭に再編の議論を進めたい。
- 私立高校授業料の実質無償化の中にあっても、通学時間や通学費用の面から地元の県立高校を選択する生徒がいる実態にも配慮したい。
- 保護者としては、子どもたちには行きたい学校に行かせたいという思いがあるので、統合するとしても子どもたちの声を聞きながら検討を進めてほしい。また、多くの校舎が完成から長年月を経過していることから、新設することも視野に入れて統廃合について考えるべきではないか。

（伊勢市内の再編〈市内の総学級数を18学級と想定して検討〉について）

- 県内唯一の学科を有する水産高校と、当地域の総合学科の学びを残すことを前提に、伊勢市内の再編に関する議論を進めていきたい。
- 専門高校における学びを維持するには、教員数確保の観点から、どのくらいの学校規模が必要なのか。また、その必要とされる学校規模を下回るのであれば、統合も致し方ないのではないか。
- 普通科高校2校の統合や専門高校3校の統合が可能かどうかなど、再編のあり方を検討するにあたっては、中学生や保護者の意見だけでなく、高校や中学校現場の意見をふまえたい。
- 伊勢市内の専門高校に県内の全ての学科が設置されているわけではないので、当地域の将来的な総学級数をふまえると、松阪地域との再編も視野に入れ、専門高校の学級数を減じる方向性で検討せざるを得ないのではないか。
- 普通科は8学級規模の1校とし、そのうち2学級で探究的な学びやSTEAM教育を中心とした学びを展開する。また、専門学科については、現在ある学科のバリエーションを維持し、伊勢工業3学級、宇治山田商業3学級、明野4学級の3校10学級として、学びの選択肢を維持する。
- 普通科高校2校を統合して1校9学級とする。また、専門高校3校も統合し、現在の学科の枠を超えて学びを見直しながら、工業系3学級、商業系3学級、農業系3学級の1校9学級とし、伊勢市内で2校の配置としてはどうか。

- 令和21年度に当地域の1学年の総学級数が15学級になると想定した場合、普通科高校は進学対応6学級と就職対応2学級の8学級、専門高校は水産高校の存続を前提に6学級、総合学科を1学級とする。その中で、就職対応の普通科2学級をどこに配置するかを考えれば、学科のバランスや学校規模の条件を満たすのではないかな。

(学校規模と学びについて)

- 「令和5年度の協議」にあるように、「進学ニーズに対応する普通科高校は、1学年6学級を下回らない」ことと、「部活動の活性化の視点から、1学年4学級を下回らない」ことの2点は大切にしたい。
- 3学級以下の高校については、少人数だからこそ実現できる教育的役割をふまえ、残すことも含めた議論をしていきたい。
- 小規模校の生徒から話を聞くと、小規模校ならではの生徒と教員の距離感や、丁寧な指導に魅力を感じている生徒も多いように感じた。小規模校も含めバランスのよい配置を考えていきたい。
- 高校の授業公開に参加して、教員が生徒一人ひとりの個性をつかむことができる少人数授業の強みを改めて感じた。学級減が進んでも、県独自で教員の加配を行い、教員数を維持してほしい。
- 生徒減が進んだとしても普通科と専門学科の双方に学びのニーズはあると思う。統合して大規模校にするよりも、ICTの活用などにより、小規模校における学校運営上の課題を補いながら、できる限り学級減で対応しつつ、充実した教育活動を実現してはどうか。
- 少子化が進む中であっては、専門高校における各学科において1学級40人の定員を充足することが難しくなるので、1学級あたりの定員を減らすことで、現在ある学びの選択肢を維持できるのではないかな。
- 特別な支援を必要とする生徒や学校に行きづらい子どもたちのために教育支援センター的機能をもつ教室を設置することで、そういった生徒や保護者の高校への進学ニーズをかなえる特色の一つになるのではないかな。
- 学級減にともなって教員数が減ることで、今ある専門的な学びが提供できなくなることを、どこの高校でも共通して不安を抱いている。
- 大学共通テストの改革により、学ばなければならない内容が増えている。そのような中、普通科高校を統合した場合、生徒の学力差が広がって授業についていけなくなる生徒が出ることを懸念する。

(今後の地域の学びと配置のあり方を検討するにあたって)

- 専門学科の学びについて、委員が深く理解できていない中で、協議会として、学科の再編も含めた学級減への対応について考えるのは難しいのではないかな。まずは、県全体のグランドデザインの中で、各学校の役割を決める必要があるのではないかな。
- 県が、グランドデザインを検討するにあたっては、学校の統合や学科改編、カリキュラム編成などを考慮していただきたい。

令和6年度第1回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和6年7月30日（火）19時00分から21時00分まで

2 場所 県伊勢庁舎 401会議室

3 概要

令和5年度に当協議会がまとめた「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」をふまえ、当地域で令和13～15年度頃までに想定される断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高等学校の再編」を論点として協議しました。

主な意見は次のとおりです。

<主な意見>

（学びと配置のあり方全般について）

- 令和6年3月の中学校卒業者数198人の減少に対し、県立高校において入学定員を160人の減としたが、当地域の令和6年度入学者選抜の結果を見ると、伊勢市内の複数の県立高校に加え私立高校においても欠員が生じることとなった。伊勢市内の高校の再編を検討するにあたっては、こうした入学者選抜の状況も考慮していく必要がある。
- 進学校は、一定の志願倍率を確保するために、入学定員をある程度絞ってもよいのではないかと考える。そうすることで、他校の志願者数の増加にもつながると考える。
- 今後の中学校卒業者数の減少を考えると、統廃合はやむを得ないと感じている。一方で、当地域は普通科と専門学科がバランスよく配置されており、部活動が魅力となっている高校もある中で、どのように減じるのかは難しい。生徒数が減少する状況だからこそ、子どもたちから選ばれる学校となるよう努力していかなくてはならない。
- 既存の県立高校の学びのスタイルありきではなく、遠隔授業やスクーリングを取り入れるなど、私立の広域通信制高校のスタイルなども参考にしながら、今後のあり方を検討してはどうか。
- かつて宇治山田商工高校が分離独立して宇治山田商業高校と伊勢工業高校となった経緯をふまえれば、少子化に伴って再び両校が統合されることとなっても、自然な流れであるように感じる。
- 今回は伊勢市内の高校の再編が論点となっているが、生徒減の影響を受けやすい小規模校のことも危機感を持って考えていくことが大切である。また、私立高校についても、中学校卒業者数の減少に合わせた入学定員の設定が必要である。
- 統合にあたっては、災害に強い土地への移転やスクールバスの導入なども検討したほうがよい。
- 中学校卒業者数が減少する中であっても、定時制高校や通信制高校への進学者数は増加しており、多様な学びが求められていると感じる。
- 多様化する生徒のニーズに応えられる高校をつくったとしても、通学に時間がかかる生徒は一定数存在することになる。その解消につながるひとつの選択肢として、伊勢市内の再編について議論できるとよい。
- 子どもたちの学びを中心とした議論を進めるためにも、委員が各高校の学びや活動を直接見る機会を設けてはどうか。
- 新しい「三重県教育ビジョン」では、子どもたちに育みたい力として、自立する力、共生する力、創造する力の3つが掲げられている。こうした力を育むために、子どもたちにどのような学びの場を提供していくのかという視点が大切である。小中学校はできるだけ近くに、高校は少し遠くても、子どもたちの夢がかなう場があればよい。

- 本日の協議を通じて、スチューデントファーストで考えること、伊勢志摩地域全体で子どもたちの学びをどう支えるかという視点が大切であることを改めて確認することができた。

(専門学科の学びの選択肢の維持)

- 専門学科については隣接する松阪地域にある学校との再編も含めた検討が必要であることは理解する。しかし、当地域の学びが松阪地域へ統合されることで、通学が困難となる生徒が多くなることも考慮して、子どもたちの学びの選択肢が狭まることのないようにしてほしい。
- 1学級40人の定員を少なくすることができないのであれば、学科改編で対応せざるを得ない。その場合であっても、伊勢市内の専門学科の学びはできるだけ維持して、この地域の子どもたちが、遠方まで通わなくても学べる環境を維持してほしい。

(普通科の一定規模の維持)

- 就学支援金制度が拡充されて以前より負担が減ったとは言え、公立高校に比べて高い学費を負担してでも私立高校を選択している理由があるはずである。その理由を分析することで、県立高校再編のヒントが得られるのではないか。
- 伊勢高校と宇治山田高校を統合すれば、それぞれが持つ特色は選択できなくなってしまふ。とは言え、専門学科の選択肢が減ることに比べれば、普通科と普通科を統合する方が、デメリットは小さいのではないか。
- 子どもたちが多くの友人との出会いや部活動・学校行事が活発である高校を望むのであれば、ある程度の学校規模があったほうがよく、そのためには統合したほうがよいという議論になるのではないか。

(今後の協議の視点)

- 今後の当地域の学びと配置のあり方を協議するにあたっては、具体的に次のようなことについて検討する必要がある。
 - ・普通科である宇治山田高校と伊勢高校の統合の可能性について
 - ・専門高校である明野高校、宇治山田商業高校、伊勢工業高校の3校を、教員数を確保しつつ、校舎制の高校として統合できるかどうかについて
 - ・普通科高校と専門高校の統合の可能性について
 - ・小規模校である鳥羽高校、志摩高校、南伊勢高校は、どこかで統合せざるを得ないと考えるが、そのプロセスをどうするのかについて
 - ・不登校の子どもたちが増えている中、通信制課程や定時制課程を含めて、多様な学びに対応した高校を、どのように地域に定着させていくのかについて
 - ・統合に伴って遠隔地となる子どもたちの学びを保障するため、市町による通学補助に加え、県としてもスクールバスの導入などの補助が可能かどうかについて

伊勢志摩地域の県立高等学校について（令和 7 年度）

1 全日制課程

①明野高校	(伊勢市)	生産科学科(40)、食品科学科(40)、生活教養科(40) 福祉科(40)
②宇治山田高校	(伊勢市)	普通科(200)
③伊勢高校	(伊勢市)	普通科(240)、国際科学コース(40)
④宇治山田商業高校	(伊勢市)	商業科(80)、情報処理科(40)、国際科(40)
⑤伊勢工業高校	(伊勢市)	機械科(80)、電気科(40)、建築科(40)
⑥南伊勢高校度会校舎	(度会町)	普通科(40)
⑦鳥羽高校	(鳥羽市)	総合学科(40)
⑧志摩高校	(志摩市)	普通科(40)
⑨水産高校	(志摩市)	海洋・機関科(40)、水産資源科(40)

2 定時制課程

⑩伊勢まなび高校	(伊勢市)	普通科：午前の部(40)、午後の部(40) ものづくり工学科：夜間部(40)
----------	-------	---

○ 課程

- ・全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・通信制：通信による教育を行う課程

○ 学科

- ・普通科：普通教育を主とする学科
※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科
(学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など)
- ・専門学科：専門教育を主とする学科
【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科
など職業教育を主とする学科
【普通科系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など職業系
以外の専門教育を施す学科
- ・総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

令和 7 年度 明野高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 農業、衣・食、福祉の専門高校として、それぞれの分野の専門的知識・技能の習得に取り組み、卒業後に実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成
- 地域産業との連携を推進し、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成

2 学校の特色（生産科学科 1 学級＋食品科学科 1 学級＋生活教養科 1 学級＋福祉科 1 学級）

- 本校は、創立以来 145 年という長い歴史を有し、農業関係学科と家庭関係学科を中心に発展してきました。平成 31 年度より農業学科（生産科学科、食品科学科）、家庭学科（生活教養科）、福祉科の 4 学科の募集となり、実学を中心に地域に貢献できる社会人の育成に力を注いでいます。本校では、広大な敷地と緑豊かな学習環境の中で、課題研究や資格取得をめざして生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいます。平成 29 年度から農業生産工程管理 J G A P、グローバル G A P、A S I A G A P 等の認証を取得しました。また放課後の部活動や、農業クラブ・家庭クラブなどの活動をとおして地域連携に励む生徒など、様々な分野に精力的に取り組む、明るく活気のある生徒がたくさん学んでいます。

<農業学科>

生産科学科では食料生産を中心とした農業生産に関する知識や技術を習得するとともに、現代の農業・農業関連産業を支え、農業の各分野で活用できる能力と態度を育成します。食品科学科では食品の加工・貯蔵・品質管理および食品衛生に関する知識や技術を総合的に学びます。将来食品業界や関連産業で貢献できる人間性豊かな能力と態度を育成します。

<生活教養科>

衣・食を中心とした家庭生活に関わる様々な分野の知識や教養を身につけ、健康で豊かな家庭生活を営める力および生活産業を支える人材を育成します。

（ア）デザインコース

ファッションデザイン・被服製作・課題研究の中で衣生活に関する基礎的・専門的な知識と技術を習得します。作品としてはシャツ、ジャケット、ゆかた、ドレスなどを製作しています。また、家庭科技術検定などの各種検定の取得や地域との交流なども取り入れています。

（イ）調理コース

調理・食品・食文化・課題研究といった授業をとおして調理や栄養など食分野の専門知識や基礎的技術の習得をめざします。また外部講師による講習会も多く実施しています。

<福祉科>

福祉に関する専門科目を学び、地域の福祉分野で活躍する人材を育成します。

（ア）社会福祉コース

多様化する社会福祉に対応できる福祉の基礎を学習します。

- ・保育所、障がい者・障がい児、高齢者福祉施設での実習
- ・福祉系、保育系大学・短大・専門学校への進学を視野に入れた専門教科の学習

（イ）介護福祉コース

介護のスペシャリストとしての専門知識・技術を習得します。

- ・介護福祉士の国家試験の受験資格取得および介護福祉士国家試験 100%合格をめざしています。
- ・地域の高齢者福祉施設での実習による実践的介護技術の習得をめざします。

令和 7 年度 宇治山田高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

◎生徒の自主性を尊重し、生徒が協力し合い高め合う学校生活を通して、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校

2 学校の特色（普通科 5 学級）

◎歴史と伝統

○『山高』の愛称で親しまれている「三重県立宇治山田高等学校」は、旧制宇治山田中学校と旧制宇治山田高等女学校の歴史と伝統を受け継ぎ、各界で活躍する卒業生を数多く輩出してきた、創立 126 年を迎える進学校です。未来を担う生徒たちは、自主・自律の校訓、文武両道の伝統のもと、日々豊かで充実した高校生活を送っています。

◎主な特色

○進路実現に向け、モチベーションを継続する学習・進路指導

- ・質の高い豊富な授業時間数

- 週 3 回の 7 限授業

- ・きめ細かな学習指導

- 英語・数学は、原則少人数の習熟度別授業を実施

- ・学力向上のサポート

- 多様な進学向け課外授業

- ・個々に応じた進学指導

- 進路希望に応じた柔軟なクラス編成（各学年 5 クラス規模）

※令和 7 年度・・・1 年生：6 クラス展開（前期クラス 2・後期クラス 4）

2・3 年生：5 クラス展開（選抜クラス 2 クラス設置）

○自主・自律の校訓

生徒の主体性を大切にした学校行事

○文武両道の推進

運動系・文化系クラブ 32 部

○前期選抜と後期選抜を設定

◎山高進学の特徴

1 現役での進学率が高い 98%

2 東海・関西地方への進学が多い 90%

3 文系・教育系の進学に強い

4 医療系（看護、理学・作業療法、放射線技師等）の進学に強い

☆多様な機関と連携した学びに取り組んでいます。

○伊勢市長に来校していただき「伊勢市長と高校生の懇談会」を開催しました。

○探究活動において、地域の課題をテーマに研究を進める生徒がおり、関連施設等に調査に出かけるなどしています。

○県事業「未来へつなぐキャリア教育推進事業」に取り組み、県内企業等で活躍する人の話や、企業の持つ技術やノウハウを聞いたり体験したりする「企業展」を開催しました。

○外部講師を招き、探究活動やキャリア学習を進めています。（三重大学、皇學館大学、県立看護大学等からの講師）

令和 7 年度 伊勢高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「生徒、保護者、地域の期待に応え、信頼される魅力ある進学校を目指します」

○高い志を抱いて、社会に貢献できる人を育てます。

○自己の実現のために、自ら学び、考え、行動し、粘り強く努力する人を育てます。

○知的探究心にあふれ、情操豊かで創造性に富んだ人を育てます。

2 学校の特色（普通科 6 学級＋国際科学コース 1 学級）

本校の教育方針は、「生徒個々の自立を促し、知的探究心に溢れた、情操豊かで行動力のある人間を育てる」ことにあります。校章の 3 つの菱形は「知識、情操、行動」の円満な人間形成を表しています。

◎人間形成の場として

○自主自律の精神と自由な校風です。自ら考え、自らの行動を厳しく律してこそ自由を謳歌できることを学び取ることができます。

○体育祭、文化祭、クラスマッチなど多彩で盛り上がる行事があります。

○担任との面談週間が年 4 回あり、学習・進路・生活面のサポート、補習・課外授業等教科のサポートも充実しています。

◎充実した学習指導

本校の教育の基本は「授業第一主義」です。「毎日の真剣な授業の積み重ねこそが真の学力になり得る」をモットーとし、生徒と教員が一体となって真剣に授業に取り組んでいます。また、45 分の 7 限とすることで、国語・数学・英語の 3 教科はほぼ毎日授業があり、基礎学力の定着に効果をあげています。

○普通科のみで、各学年 7 クラスと南勢志摩地域では最大規模の県立高校です。

○令和 6 年度入試での国公立大学現役合格者延べ数は、京大 3 名、名古屋大 12 名、医学部医学科 3 名などの難関大学・学部を含め 144 名でした。また、地元の三重大は 47 名でした。

○過去 3 年間では陸上競技、弓道、軟式野球、バドミントン、卓球、フェンシング、囲碁、将棋が県代表として活躍するなど部活動も盛んな学校です。

○「学校の雰囲気がよく、楽しい」と思う生徒が 90%を超える、満足度の高い学校です。

○文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、13 年目の取組をしています。科学技術に携わる人材育成から、幅広く探究的に物事をとらえ、学問に生かす活動をしています。

※令和 3 年度「日本学生科学賞」で最高賞の内閣総理大臣状賞を受賞。国際コンクールでも 3 位入賞。科学の甲子園全国大会出場。

令和 7 年度 宇治山田商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 「健康明朗・自律協同・誠実勤勉」の校訓のもと、生徒の自立を促し、変化する実社会で活躍できる基礎を育む学校

2 学校の特色（商業科 2 学級＋情報処理科 1 学級＋国際科 1 学級）

（1）商業科

- ビジネスに関する幅広い知識と技術を習得し、より専門的な知識や技術を備えた人材を育成します。
- 簿記、情報処理などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

（2）情報処理科

- 進展する情報化社会において、情報を処理・分析し、情報機器を活用した業務改善が提案できる人材を育成します。
- ITパスポート、基本情報技術者等の国家資格を中心に、簿記などのビジネスに関する資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

（3）国際科

- 多角的な英語の授業により実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに、簿記や情報処理などビジネスに関する知識や技術を習得し、国際社会で活躍できるグローバルな人材を育成します。
- 実用英語検定をはじめ、簿記などのビジネスに関する幅広い資格取得を進め、卒業後の進路実現をめざします。

【探究型活動】

1 年次から教科学習でグループ活動を積極的に取り入れ、その中で授業内容に沿ったテーマで探究活動を行っています。特に 3 年次には、全学科共通の「課題研究」の授業において、生徒がテーマを設定し、「観光」、「ビジネスプラン」、「商品開発」をはじめ、地元伊勢市や多くの企業とも連携した探究的な学習に取り組んでいます。

【活発な部活動】

ほとんどの生徒が部活動に取り組んでおり、運動部・文化部ともに活発に活動し、多くの部が全国レベルの成果をあげています。

【進路希望の実現】

「商業高校＝就職」のイメージが強いですが、山商からは国公立をはじめ難関私大にも多数合格しており、進学者が卒業生の 7 割を占めています。一方、公務員や地元を中心とした多くの有名企業へも就職し、生徒は充実した学校生活を送りながら進路希望の実現に取り組んでいます。

令和 7 年度 伊勢工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○活気ある工業高校 「高志」ある生徒

地元企業の基盤を支える技術者の育成を軸に、一人ひとりの生徒が望む進路の完全保障を実現する工業高校

- ・ 基本的生活習慣を着実に身につけた、社会常識のある明るく素直で積極的な生徒の育成（ひとづくり）
- ・ 産業界から求められる確かな技術・技能を身につけようと意欲に満ちて励む生徒の育成（ものづくり）
- ・ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒の育成

2 学校の特色（機械科 2 学級＋電気科 1 学級＋建築科 1 学級）

明治 29 年（1896 年）造船技術を学ぶ「大湊工業補習学校」として開校以来、百三十年近い歴史と伝統をもち、卒業生は 1 万 5 千人を超え、今までに地元企業を中心に産業界に数多くの有為な人材を輩出しています。求人数は卒業予定者数の約 1.4 倍あり、南勢地区唯一の工業高校として地元企業から人材を求められる学校です。

近年の急速な技術革新等、大きな社会の変化に応じて求められる知識や技術を十分に把握しながら、生徒が専門的な技術・技能を習得し「課題解決力」を備えた意欲的な生徒を育てています。令和 6 年度からは高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）の指定を受け、DX のものづくり人材を視野に入れた取組をしています。

卒業後に企業に求められる資質・能力を育成するため、実験・実習などは 10 人で 1 班の少人数指導を実施し、一人ひとりの能力・適性に応じた教科指導を行っており、令和 5 年度 6 月の G 7 三重・伊勢志摩交通大臣会合において、各国大臣への地酒贈呈用に建築科の生徒が授業で木箱を製作し、高い専門性を世界に示したところです。

また、生徒の「ものづくり」の視野を広げるため、各種資格取得に向けた学習ができるよう校内体制づくりに努めるとともに、各科でスペシャリストを育成しており、「ものづくりコンテスト」県大会において、令和 7 年度は木工加工部門（2 名参加可能）で優勝・準優勝し、電気工事部門では準優勝し 8 月に行われる東海大会に出場することが決まっています。また、令和 6 年度は溶接部門でも三重県代表になりました。

令和 3 年度より地域で「高校生工務店」として活動を始め、地域の「困りごと」を工業高校生が「ものづくり」で解決しています。これは、伊勢志摩地域の皆さまが困っている案件を、各科の生徒が「ものづくり」の観点から課題を見出し、解決する活動です。この活動をとおして、生徒の「ひとづくり」も達成しており、伊勢度会地区交通安全対策協議会主催の「交通安全教室・未来へのかけはし運動」等に協力しています。

部活動も盛んで、全校生徒の約 80%が 11 の運動部、7 つの文化部に所属して活動しています。運動部は、毎年県高校総体において総合成績は上位に入っています。硬式野球部、ソフトテニス部、陸上競技部、バドミントン部を始めとする各クラブが県内の大会において顕著な成績を残しています。文化系では、機械研究部、建築研究部、電気研究部の工業高校の特色を活かした部活動に加えて、吹奏楽部、茶道部、美術部等があります。建築研究部は令和 5 年度に「建築甲子園」（日本建築士会連合会など主催）で全国 4 位に入賞し、令和 6 年度も県代表として出場しています。

進路実績は、おおよそ 8 割が就職し、伊勢志摩地域、三重県、東海地方と、この地域でものづくりを担うスペシャリストとして活躍しています。2 割の進学した生徒は、さらなる資格取得を目指しており、その中で、ほぼ毎年卒業生が教育実習で教壇に立っています。

令和 7 年度 南伊勢高校度会校舎（全日制）の特色

1 めざす学校像

◎自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校

●育みたい生徒像

- 自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒
- 自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒
- 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒

2 学校の特色（普通科 1 学級）

◎本校の特色ある学習内容

- (1) 度会町社会福祉協議会との交流「福祉体験学習」「クリスマス会」等
- (2) 特別支援学校との交流「総合的な探究の時間での交流」
- (3) 環境ボランティア活動「地域清掃（草刈り、ゴミ・空き缶拾い）」
- (4) 様々な体験講座「茶摘み」「心肺蘇生法」「交通安全教室」等
- (5) 様々な講演会「人権教育」「地域活動」「進路」「国際教育」等
- (6) 小中学校等との交流「出前授業」「図書館開放」「高校生活入門講座」「進路説明会」等
- (7) 近隣ケアハウスとの交流「出前図書館」「総合的な探究の時間での交流」等
- (8) 森林組合での体験・交流「総合的な探究の時間での体験・交流」

本校では、地元の皆様の支援をいただきながら、以上のような体験的・課題解決的な授業を行い、これからの社会を生き抜く力の育成に取り組んでいます。

令和 7 年度も、地元茶園のご協力による茶摘み体験（度会小学校・度会中学校と合同で実施）、度会町教育委員会と協働した図書館開放イベント（地元保育所・小学校の園児・児童が来校）、ケアハウスへの「出前図書館」（本校の蔵書を持参し、貸出）などを実施しました。総合的な探究の時間における、度会町社会福祉協議会・度会特別支援学校・いせしま森林組合・棚橋保育所等、地域の様々な団体との交流活動も例年通り実施しています。今後は度会町商工会・度会町役場と連携して、地域の祭りにも参画する予定です。

◎全教職員による、一人ひとりの生徒へのきめ細かな関わり

本校では、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな関わりを大切にしています。授業などの学習指導における関わりだけでなく、生徒の日々の悩み事などを全教職員がそれぞれの関係性の中で受けとめ、連携して支える雰囲気があります。また、進路実現に向けた様々な学習も全校体制で指導・支援しています。

そういった教職員の関わりは、学習活動・部活動の活性化にもつながっています。学習活動においては、基礎学力の向上、各種資格取得等に成果が現れています。部活動においては、戦績として目立ったものはなくとも、教職員の支援のもと部員が少ない中で工夫して練習し、互いを思いやり支え合いながら人間的に成長していく生徒の姿が随所に見られます。

令和 7 年度 鳥羽高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校
 ～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～

2 学校の特色（総合学科 1 学級）

- ・創設 114 年目を迎え、卒業生は 18,000 人を超える歴史と伝統のある高等学校
- ・国際観光都市である鳥羽市に一つしかない公立高等学校
- ・南勢地区に一つしかない総合学科を設置する高等学校

<学びの目標>

- ・地域社会で貢献できる人材育成を目指し、体験的な教育活動の推進
- ・生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎基本の定着を図る取組の推進
- ・自己の生き方・在り方の認識を目指し、自他の理解や良好な人間関係形成のため
 の人権意識を高める学習活動の推進

<具体的な教育活動>

- ・探究活動（産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学）
- ・系列授業、自由選択科目、就業体験学習（観光・福祉）
- ・学びの基礎診断、基礎力養成講座、少人数教育
- ・人権ロングホームルーム、部活動、交流（国際・他県高校生・地域小中学生）等

3 総合学科 3 系列の内容（2 年次から系列選択）

- 1) 観光ビジネス系列【企業の即戦力をめざす】
 - ・情報処理やビジネスの基本、観光地鳥羽の魅力、商品開発などを学びます。
- 2) 総合福祉系列【福祉のスペシャリストをめざす】
 - ・福祉・保育施設等での体験実習、高齢者などへの援助の方法などを学びます。
 - ・介護職員初任者研修の資格取得をめざします。
- 3) 人文教養系列【個々に応じた進路希望をめざす】
 - ・少人数講座が多く、一人ひとりの学習状況・進路希望に応じて学びます。
 - ・進学するために必要な学力から発展的な学力まで、幅広く身につけます。

4 多くの地域連携と特色ある授業、取組

- 幅広い選択科目（学校設定科目として手話、おもてなし入門、陶芸等）
- デュアルシステム・インターンシップ（地元企業・施設で就業体験、実習）
- 地域探究「鳥羽学」（鳥羽を舞台に知識習得、課題発見、探究、発表）
- 産業社会と人間（起業体験プログラム「とばっ子カンパニー」）
- 異校種連携（幼稚園を招聘、小学校出前講座（英語、地域研究、商品開発）等）
- 国際交流（R 5 インドネシア高校生、R 6 ミスインターナショナル・フランス）
- ほっとばカフェ（こども食堂との連携、放課後生徒の居場所づくり、地域交流）
- 部活動等連携（フェンシング部合同練習、とばっこくらぶ（地域魅力発信）等）

令和 7 年度 志摩高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 「自律・協調・敬愛」の校訓のもと、生徒一人ひとりの希望がかなう確かな進路実現に向けて、「チーム志摩高」として教職員が一丸となって取り組む学校
- 志摩地域唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、地域に貢献し、地域に愛され、地域とともにある学校

2 学校の特色（普通科 1 学級）

在校生全員が志摩市とその隣接市町の中学校出身という極めて地域性の高い学校で、志摩市内唯一の普通科高校として地域との結びつきを大切にし、地域のサポートをいただきながら、個々の生徒に寄り添った教育活動に取り組んでいます。今後も小規模校のメリットを最大限に生かし、一人ひとりの生徒の満足度を高める教育活動を続けていきます。

（1）志摩高校が大切にするふたつの学び

①地域について学ぶ

- 3年間の総合的な探究の時間「志摩学」で地域に関する探究活動を行う
- 「志摩学」の一環としてフィールドワークを行い、地域の方の生の声を聞く
- 地域の方を講師に招き、地域の実情を学ぶ
- 地域に関連する題材を取り入れた日々の授業をとおして、多面的に地域を学ぶ
- 部活動、生徒会活動、学校行事等、学校生活全般で地域と関わる

②進路希望をかなえる

- 小規模校のメリットを活かし、一人ひとりの生徒に寄り添った指導を行う
- 習熟度別学習や、放課後の学習タイム「マナビバ」を活用し、基礎学力の定着と一人ひとりに応じた学力向上をめざす
- コミュニケーション能力・社会常識・課題解決能力等、社会の即戦力となる力を身につける
- 1年次からの計画的なキャリア学習をとおして、自身の進路意識を高める

（2）進路を実現するためのコース

2年次からは、卒業後の進路目標に合わせ、コースに分かれて学習します

- 進学コース・・・進学した大学等で学ぶための基本となる学力を身につけるとともに、進路希望先の受験に対応できる科目を学べ、三重大学教育学部や三重県立看護大学の地域推薦での受験が可能なコース
- 教養コース・・・社会人として求められる基本的な能力や、現代社会で必須とされるパソコンスキルの習得、関連資格の取得に加え、芸術・家庭・体育分野等も幅広く学び、豊かな人間性を育めるコース

（3）地域連携

- ・地域連携型キャリア教育「志摩学」でのフィールドワークや、事業所等による講演
- ・各種行事への参加「志摩の夏祭り（美術部）」「高校生によるスマホ教室（有志）」
- ・志摩市選挙管理委員会による「模擬選挙」「期日前投票所の設置」
- ・鳥羽警察署と連携したハイスクールパトロール「A f t e r G 7」
- ・全国豊かな海づくり大会への協力・参加

他

令和 7 年度 水産高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」に注力し、「地域と社会から信頼され必要とされる学校」

2 学校の特色（海洋・機関科 1 学級＋水産資源科 1 学級）

県内唯一の水産・海洋系専門高校として海洋・機関科（2 年時より海洋コース、機関コース、水産工学コース）と水産資源科（2 年時よりアクアフードコース、アクアデザインコース）を設置し、次のような特色ある教育活動を実施しています。

- 実習船「しろちどり」による長期航海実習
- 海洋環境調査や魚貝類の放流など水産資源についての貢献活動
- ダイビングなどのマリンスポーツについての学習
- ディーゼルやガソリン等の各機関や機械等の構造、作動、取扱いについての学習
- 金属材料や機械製図、機械加工等についての学習
- 魚介類の養殖や繁殖保護、魚介類に関する食品加工等についての学習
- 小型船舶操縦士、ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱者等の資格取得
- 本校は 5 級海技士（航海・機関）の養成施設の指定を受けているため、5 級海技士の筆記試験が免除
- 大型漁船や貨物船の船長・機関長、士官となるために必要な上級海技士免状の取得をめざす漁業専攻科・機関専攻科（各 2 年）も設置

<海洋コース>

乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて、航海や海に関する知識・技術を習得し、海技士（航海）・1 級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、ダイビング実習等を通じて海洋についての知識・理解を様々な角度から深め、水産業界をはじめとする各産業界や地域に貢献できる人材を育成します。

<機関コース>

乗船実習を中心とした専門的な学習を通じて、船舶の機関士に関する知識・技術を習得し、海技士（機関）・1 級小型船舶操縦士の資格取得を目指すとともに、併せて工学に関する基礎的な学習を幅広く行いながら、船舶、工業、港湾関連や地域に貢献できる人材を育成します。

<水産工学コース>

工学的な分野だけではなく、水産、海洋、商業といった多種多様な専門的な学習を行います。併せて広い範囲の専門教科の学習を行い、機械系製造業の関連業界で活躍できる人材を育成します。

<アクアフードコース>

乾製品、ねり製品、佃煮、ビン詰め、燻製品等の水産加工食品を中心に様々な食品についての知識・調理・加工技術を学習します。原材料や副材料についての学習を通じ、様々な食材の特徴や利用について理解を深めます。食品の品質管理や安全管理についての知識を習得し、食に関する関連業界で活躍できる人材を育成します。

<アクアデザインコース>

海洋生物の採集、繁殖、アクアリウムの設計や魚類（ブリ・マダイ・サケマス・金魚など）の種苗生産・養殖管理技術を学習します。また、地域産業である真珠養殖等の学習を行います。海洋環境に関連する諸問題等についての理解を深め、関連業界で活躍できる人材を育成します。

令和 7 年度 伊勢まなび高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒が安心して楽しく学べる学校
- 生徒が学びたい内容を自分のペースにあわせて学べる学校
- 生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校

2 学校の特色

（1）3 部制の定時制高校

普通科の「午前の部」（8：50～12：15）と「午後の部」（13：10～16：35）、ものづくり工学科（工業科）の「夜間部」（17：30～21：05）の 3 部からなる定時制高校です。生徒はいずれかの部に所属し、基本的に 1 日 4 限の授業を受けます。

（2）単位制の高校として

単位制の本校には、「進級」や「原級留置」という考え方ありません。学校が定める教科科目を 74 単位以上修得すれば卒業が認められます。定時制高校は 4 年間で卒業することを基本としますが、本校では自分の所属する部の時間帯以外の授業を受けることにより、3 年間で 74 単位以上の科目を修得し卒業すること（三修制）も可能です。高等学校卒業程度認定試験の合格科目、技能審査に関する学修、通信制課程での修得単位（定通併修）等、学校外での学修成果に対して一定の条件で単位を認定しており、認定された単位を卒業に必要な単位に含めることもできます。

また、社会に出て自立できる力を身につけられるよう、必修科目以外に「手話」「ペン習字」「コミュニケーション学習」「地域工芸学」等、本校独自の多様な選択科目を設定しています。

（3）通級による指導の導入（県内の高校で初）など多様な生徒に対する支援

本校には、不登校や他校を退学した経験がある生徒、家庭的・経済的に困難さがある生徒、発達障がいを含む特別な支援を必要とする生徒などが在籍しています。多様な生徒を支援するため、少人数のクラス編成やティーム・ティーチングの実施、特別支援教育の推進等に取り組んでいます。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、高校生活スペシャルマネージャーや外部機関とも連携しながら、きめ細かな教育を行っています。

特に、本校では発達段階に関わらず、特に通常の授業や卒業後の社会において、「人とのつながり（関係）を自分で作ることができるか」を重視し、必要と思われる生徒に対して、社会で自立するために必要な力やコミュニケーション能力等を高めることが出来るよう、通級による指導を実施しています。通級による指導とは、大部分の授業を通常の学級で受けながら、障がい等に応じた特別な指導を特別な場で受ける指導形態のことであり、授業の遅れを取り戻すために取り出して行う指導ではありません。

伊勢志摩地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況

1 令和7年3月卒・現高1

(1) 全日制

資料 3

学校名	学科・コース	入学定員	R612時点の進学		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			希望者数	定員との差	募集人数	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集人数	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
明 野	生産科学	40	46	6	20	47	2.35	22	18	18	1.00	18	0	0	0	40	0
	食品科学	40	38	▲2	20	34	1.70	22	18	16	0.89	18	0	0	0	40	0
	生活教養	40	51	11	20	50	2.50	22	18	23	1.28	18	0	0	0	40	0
	福祉	40	33	▲7	20	33	1.65	22	18	17	0.94	17	1	2	1	40	0
	計	160	168	8	80	164	2.05	88	72	74	1.03	71	1	2	1	160	0
宇治山田	普通	200	201	1	60	178	2.97	66	134	142	1.06	134	0	0	0	200	0
	計	200	201	1	60	178	2.97	66	134	142	1.06	134	0	0	0	200	0
伊 勢	普通	240	224	▲16	-	-	-	-	240	212	0.88	240	0	0	0	240	0
	国際科学コース	40	61	21	-	-	-	-	40	73	1.83	40	0	0	0	40	0
	計	280	285	5	-	-	-	-	280	285	1.02	280	0	0	0	280	0
	商業	80	102	22	40	93	2.33	44	36	43	1.19	36	0	0	0	80	0
宇治山田商業	情報処理	40	38	▲2	20	38	1.90	22	18	18	1.00	18	0	0	0	40	0
	国際	40	38	▲2	20	34	1.70	22	18	16	0.89	18	0	0	0	40	0
	計	160	178	18	80	165	2.06	88	72	77	1.07	72	0	0	0	160	0
	機械	80	80	0	40	76	1.90	44	36	39	1.08	36	0	0	0	80	0
伊勢工業	電気	40	37	▲3	20	36	1.80	22	18	17	0.94	18	0	0	0	40	0
	建築	40	39	▲1	20	39	1.95	22	18	14	0.78	14	4	5	4	40	0
	計	160	156	▲4	80	151	1.89	88	72	70	0.97	68	4	5	4	160	0
南伊勢 (度会校舎)	普通	40	35	▲5	20	34	1.70	22	18	10	0.56	10	8	3	3	35	▲5
	計	40	35	▲5	20	34	1.70	22	18	10	0.56	10	8	3	3	35	▲5
鳥 羽	総合学科	40	31	▲9	20	32	1.60	22	18	12	0.67	11	7	8	7	40	0
	計	40	31	▲9	20	32	1.60	22	18	12	0.67	11	7	8	7	40	0
志 摩	普通	40	18	▲22	20	17	0.85	17	23	5	0.22	5	18	3	3	25	▲15
	計	40	18	▲22	20	17	0.85	17	23	5	0.22	5	18	3	3	25	▲15
水 産	海洋・機関	40	29	▲11	20	35	1.75	22	18	13	0.72	13	5	0	0	35	▲5
	水産資源	40	13	▲27	20	15	0.75	15	25	0	0.00	0	25	0	0	15	▲25
	計	80	42	▲38	40	50	1.25	37	43	13	0.30	13	30	0	0	50	▲30
伊勢志摩地域(全日制) 計		1,160	1,114	▲46	400	791	1.98	428	732	688	0.94	664	68	21	18	1,110	▲50

※「12月時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

(2) 定時制

学校名	学科・コース	入学定員	R612時点の進学		前期選抜等(下段：特別選抜)				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			希望者数	定員との差	募集人数	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集人数	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
伊勢まなび	普通 (午前の部)	40	25	▲15	20 (特別)4	26 3	1.30 0.75	24	16	3	0.19	3	13	0	0	27	▲13
	普通 (午後の部)	40	16	▲24	20 (特別)4	17 0	0.85 0.00	17	23	4	0.17	4	19	1	1	22	▲18
	ものづくり工学 (夜間部)	40	3	▲37	20 (特別)4	3 0	0.15 0.00	3	37	1	0.03	1	36	0	0	4	▲36
	計	120	44	▲76	72	49	—	44	76	8	0.11	8	68	1	1	53	▲67

※「12月時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

2 令和6年3月卒・現高2 (1) 全日制

学校名	学科・コース	入学定員	R5.12時点の進学		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			希望者数	定員との差	募集人数	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集人数	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数		
明 野	生産科学	40	42	2	20	45	2.25	22	18	19	1.06	17	1	0	0	40	0
	食品科学	40	38	▲ 2	20	38	1.90	22	18	12	0.67	12	6	2	2	36	▲ 4
	生活教養	40	47	7	20	45	2.25	22	18	20	1.11	18	0	0	0	40	0
	福祉	40	29	▲ 11	20	28	1.40	22	18	12	0.67	14	4	1	1	37	▲ 3
	計	160	156	▲ 4	80	156	1.95	88	72	63	0.88	61	11	3	3	153	▲ 7
宇治山田	普通	200	194	▲ 6	60	176	2.93	66	134	127	0.95	127	7	5	4	197	▲ 3
	計	200	194	▲ 6	60	176	2.93	66	134	127	0.95	127	7	5	4	197	▲ 3
伊 勢	普通	240	219	▲ 21	-	-	-	-	240	208	0.87	240	0	0	0	240	0
	国際科学コース	40	56	16	-	-	-	-	40	79	1.98	40	0	0	0	41	0
	計	280	275	▲ 5	-	-	-	-	280	287	1.03	280	0	0	0	281	0
宇治山田商業	商業	80	87	7	40	87	2.18	44	36	43	1.19	36	0	0	0	80	0
	情報処理	40	45	5	20	41	2.05	22	18	23	1.28	18	0	0	0	41	0
	国際	40	39	▲ 1	20	38	1.90	22	18	17	0.94	18	0	0	0	40	0
	計	160	171	11	80	166	2.08	88	72	83	1.15	72	0	0	0	161	0
伊勢工業	機械	80	76	▲ 4	40	70	1.75	44	36	30	0.83	30	6	3	3	77	▲ 3
	電気	40	19	▲ 21	20	19	0.95	19	21	5	0.24	4	17	2	2	26	▲ 14
	建築	40	25	▲ 15	20	28	1.40	22	18	10	0.56	10	8	2	2	34	▲ 6
	計	160	120	▲ 40	80	117	1.46	85	75	45	0.60	44	31	7	7	137	▲ 23
南伊勢 (度会校舎)	普通	40	13	▲ 27	20	9	0.45	9	31	4	0.13	4	27	0	0	13	▲ 27
鳥 羽	計	40	13	▲ 27	20	9	0.45	9	31	4	0.13	4	27	0	0	13	▲ 27
	総合学科	40	44	4	20	44	2.20	22	18	20	1.11	18	0	0	0	40	0
志 摩	計	40	44	4	20	44	2.20	22	18	20	1.11	18	0	0	0	40	0
	普通	40	31	▲ 9	20	33	1.65	22	18	10	0.56	10	8	1	1	33	▲ 7
水 産	計	40	31	▲ 9	20	33	1.65	22	18	10	0.56	10	8	1	1	33	▲ 7
	海洋・機関	40	32	▲ 8	20	33	1.65	22	18	14	0.78	14	4	1	1	37	▲ 3
	水産資源	40	23	▲ 17	20	23	1.15	21	19	5	0.26	5	14	0	0	26	▲ 14
	計	80	55	▲ 25	40	56	1.40	43	37	19	0.51	19	18	1	1	63	▲ 17
伊勢志摩地域(全日制) 計		1,160	1,059	▲ 101	400	757	1.89	423	737	658	0.89	635	102	17	16	1,078	▲ 84

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

※「12月時点の進学希望者数」は、県内の国公私立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

(2) 定時制

学校名	学科・コース	入学定員	R5.12時点の進学		前期選抜等（下段：特別選抜）				後期選抜				再募集		入学者数	欠員	
			希望者数	定員との差	募集人数	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集人数	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数			合格者数
伊勢まなび	普通 （午前の部）	40	27	▲ 13	20 （特別）4	25 1	1.25 0.25	21	19	10	0.53	10	9	1	1	32	▲ 8
	普通 （午後の部）	40	18	▲ 22	20 （特別）4	20 0	1.00 0.00	20	20	5	0.25	5	15	2	2	27	▲ 13
	ものづくり工学 （夜間部）	40	4	▲ 36	20 （特別）4	2 0	0.10 0.00	2	38	0	0.00	0	38	1	1	3	▲ 37
	計	120	49	▲ 71	72	48	—	43	77	15	0.19	15	62	4	4	62	▲ 58

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

		R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
伊勢市	卒業生数	1,082	1,126	975	1,029	996	1,019	958	891	942	899	864	782	863
	前年度対比		44	-151	54	-33	23	-61	-67	51	-43	-35	-82	81
度会郡	卒業生数	315	337	311	321	297	293	272	276	273	288	244	259	231
	前年度対比		22	-26	10	-24	-4	-21	4	-3	15	-44	15	-28
鳥羽市	卒業生数	143	122	106	119	109	98	99	110	88	101	85	94	86
	前年度対比		-21	-16	13	-10	-11	1	11	-22	13	-16	9	-8
志摩市	卒業生数	339	340	335	284	316	301	242	287	280	251	246	211	203
	前年度対比		1	-5	-51	32	-15	-59	45	-7	-29	-5	-35	-8
小計	卒業生数	1,879	1,925	1,727	1,753	1,718	1,711	1,571	1,564	1,583	1,539	1,439	1,346	1,383
	前年度対比		46	-198	26	-35	-7	-140	-7	19	-44	-100	-93	37
県内合計	卒業生数	16,244	16,055	15,891	15,718	15,517	15,261	14,807	14,345	14,044	14,030	13,399	12,753	12,408
	前年度対比		-189	-164	-173	-201	-256	-454	-462	-301	-14	-631	-646	-345
						-201	-457	-911	-1,373	-1,674	-1,688	-2,319	-2,965	-3,310

令和7年5月1日 教育政策課調べ

【県立高校（全日制）】

伊勢市内	入学定員 (学級数)	960 (24)	1,000 (25)	960 (24)	960 (24)	920 (23)
	欠員数※	1	3	33	0	
伊勢市以外	入学定員 (学級数)	320 (8)	320 (8)	200 (5)	200 (5)	200 (5)
	欠員数※	129	117	51	50	
小計	入学定員 (学級数)	1,280 (32)	1,320 (33)	1,160 (29)	1,160 (29)	1,120 (28)
	欠員数※	130	120	84	50	
県内合計	入学定員 (学級数)	10,880 (274)	10,640 (268)	10,440 (263)	10,240 (258)	10,000 (252)
	欠員数※	334	342	207	179	

※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【私立高校（全日制）、高専】

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
皇學館	入学定員	315	315	315	315	315
	入学者数	353	327	288	321	-
伊勢学園	入学定員	230	230	230	230	230
	入学者数	274	289	260	208	-
鳥羽商船	入学定員	120	120	120	140	140
	入学者数	120	120	122	141	-
3校の欠員数（合計）		△82	△71	△5	15	-

(参考)

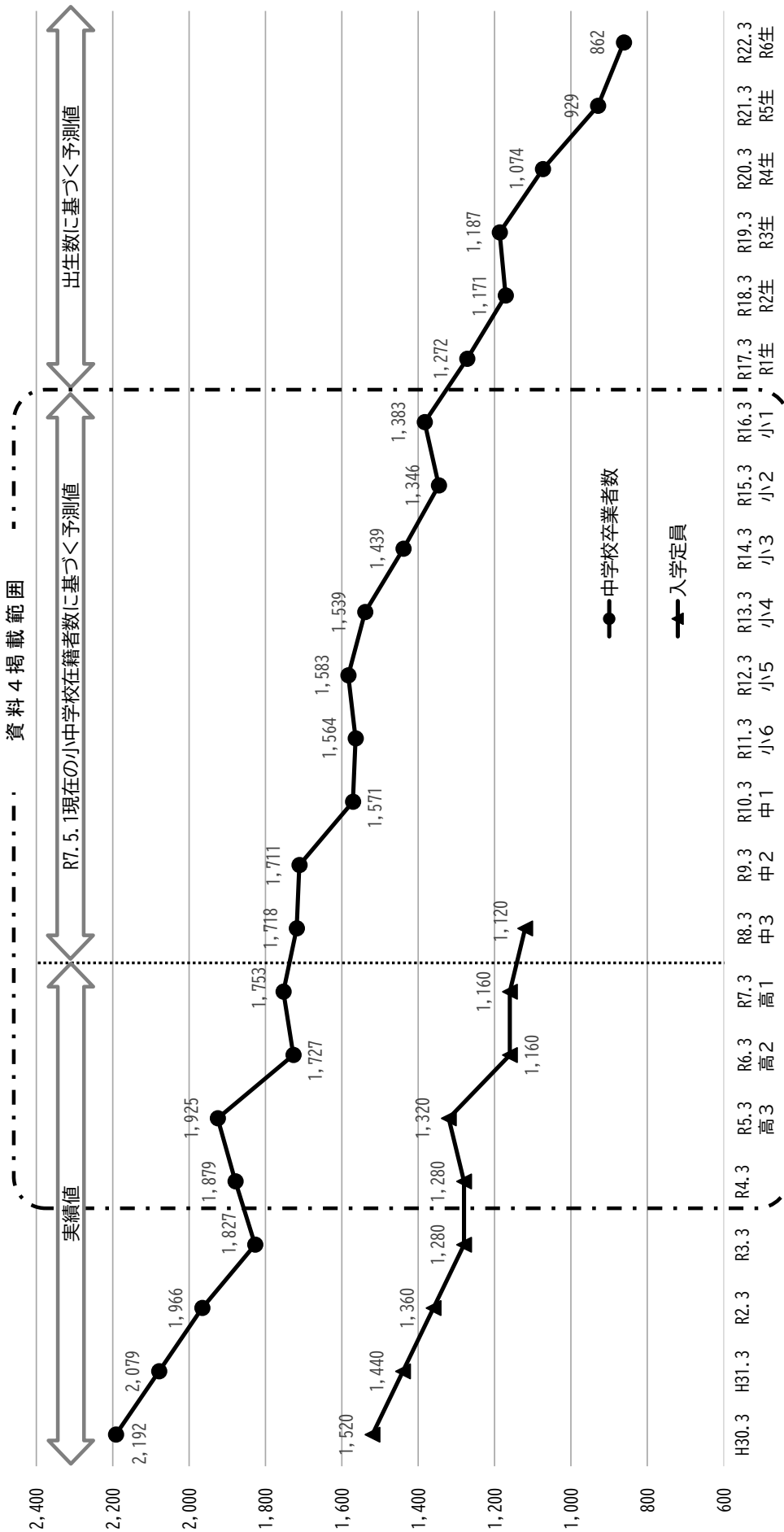
三重	入学定員	540	535	530	530	530
	入学者数	584	563	468	530	-

※令和7年度入学者数は、各校ホームページの記載人数を転記

※欠員数の（△）は、定員を超過した入学者数を示す。

※令和7年度入学者数は、三重高等学校ホームページの記載人数を転記

伊勢志摩地域の中学校卒業者と県立高等学校入学定員（全日制）の推移と予測



【伊勢志摩地域の出生数】

	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小3	現小2	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
伊勢市	864	814	883	811	761	744	705	601	544
度会郡	241	230	206	188	180	200	177	154	134
鳥羽市	109	94	98	83	65	88	56	57	42
志摩市	240	227	209	205	177	167	145	126	150
合計	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199	1,083	938	870

県立高等学校(全日制)の学級数の状況(令和8年度)

資料 6

地域名	入学定員 (R8.3卒業見込者数)	40人ベースの学級数								学校数
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	
桑名	1,160 (1,924)				桑名北(普) 桑名工業(工)		桑名西(普)▲1	いなべ総合学園(総)	桑名(普・看・理)	5校 (29学級)
四日市	2,480 (3,440)			朝明(普・福)▲1	四日市四郷(普) 菰野(普)	四日市西(普) 四日市中央工業(工) 四日市農芸(農・家)	四日市商業(商)	川越(普・他) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)	11校 (62学級)
鈴鹿	1,120 (2,258)		石薬師(普)		飯野(外・他) 稻生(普・体)	亀山(普・家・情)	白子(普・家)	神戸(普・理)		6校 (28学級)
津	1,840 (2,552)		白山(普・商)		久居(普)▲1		津東(普) 津商業(商) 津工業(工) 久居農林(農・家)	津(普) 津西(普・他)		8校 (46学級)
松阪	1,000 (1,810)		飯南(総) 卯学園(総)		松阪商業(商)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)		6校 (25学級)
伊勢志摩	1,120 (1,718)	南伊勢 度会校舎(普) 鳥羽(総) 志摩(普)	水産(水)		明野(農・家・福) 宇治山田(普)▲1 宇治山田商業(商) 伊勢工業(工)			伊勢(普)		9校 (28学級)
伊賀	920 (1,368)	あけぼの学園(総) ▲1				名張(総) 名張青峰(普)▲1	上野(普・理) 伊賀白鳳 (農・工・商・福)			5校 (23学級)
東紀州	360 (447)				尾鷲(普・工・商)	熊野青藍 木本校舎(普・総) 紀南校舎(総)				2校 (9学級)
学校数	学校数	4校 (4学級)	5校 (10学級)	1校 (3学級)	13校 (52学級)	9校 (45学級)	9校 (54学級)	6校 (42学級)	5校 (40学級)	52校 (250学級)

【備考】

- 学科名略称：(普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科[(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際探究、国際科学、応用デザイン)、(総)総合学科
- 校舎制の熊野青藍高校は、木本校舎4学級・紀南校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により伊賀白鳳高校は7学級240人、尾鷲高校は5学級160人として募集しています。

※▲：前年度比減

伊勢志摩地域および松阪地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)

資料 7

	学校名	大学科	入学定員					
伊勢志摩地域全日制課程	県立 宇治山田高校	普通科	160	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース
	県立 伊勢高校	普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	
	県立 伊勢工業高校	専門学科	160	機械科	機械科	電気科	建築科	
	県立 宇治山田商業高校	専門学科	160	商業科	商業科	情報処理科	国際科	
	県立 明野高校	専門学科	160	生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科	
	県立 南伊勢高校	普通科	40	普通科				
	県立 鳥羽高校	総合学科	40	総合学科				
	県立 志摩高校	普通科	40	普通科				
	県立 水産高校	専門学科	80	海洋・機関科	水産資源科			
	私立 皇学館高校	普通科	315	普通科:315人、進学コース・特別進学コース				
	私立 伊勢学園高校	普通科	230	普通科:230人、特別進学コース・選択コース(情報ビジネス・生活デザイン・進学)・看護医療コース				
				伊勢志摩地域 中学校卒業生数 R8.3卒 1,718人				
				全28学級 普通科 13 専門学科 14 (工業4) (商業4) (農業2) (家庭1) (福祉1) (水産2) 総合学科 1				

○定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人 普通科:午前の部40人、午後の部40人
ものづくり工学科:夜間部40人

○通信制課程 私立 英心高校(伊勢本校) 80人 普通科:(全日型、水曜、土曜の各コース)

私立 代々木高校 1,000人 普通科:(通学コース、通信一般コース等)

○高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

(参考)

	学校名	大学科	入学定員					
松阪地域全日制課程	県立 松阪高校	普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科
	県立 松阪工業高校	専門学科	200	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科
	県立 松阪商業高校	専門学科	160	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科	
	県立 飯南高校	総合学科	80	郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ				
	県立 相可高校	普通科 専門学科	200	普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科
	県立 昂学園高校	総合学科	80	地域探究、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術				
	私立 三重高校	普通科	530	普通科(進学コース、特進コース、六年制) : 530人				
				松阪地域 中学校卒業生数 R8.3卒 1,810人				
				全25学級 普通科 9 専門学科 12 (工業5) (商業4) (農業2) (家庭1) 総合学科 4				

※大学科の普通科には普通科系専門学科を含む

令和 7 年度の協議について

1 令和 6 年度の協議

これまで当地域では、令和 4 年 3 月に策定した「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、検討を重ね、令和 4 年度には、地域の中学生と保護者を対象としたアンケート調査の結果も踏まえながら、令和 5 年 2 月に協議会のまとめを策定しました。翌令和 5 年度の協議会では、「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」を策定し、方向性をとりまとめました。このまとめでは、今後想定される学級減への対応について、段階的に方向性をまとめる必要性が示されました。また、その協議を進めるにあたっては、学校個別ではなく、当地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点が重要であるとされました。

このことから、令和 6 年度の協議会では、それまでの協議を踏まえ、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の視点で、15 年先の当地域の配置の姿をイメージしながら、その過程である令和 13～15 年度頃までに想定される断続的な学級減へのより具体の対応について、さらに協議を進めました。その中で、1 学年あたり 4 学級以上の規模がある伊勢市内の 5 校においても、地域に求められる教育を提供する上では、統合は避けられず、その再編にあたっては思い切った試みも必要であるとの意見がありました。

※参考資料①：伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について

※参考資料②：令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）

2 令和 7 年度の協議の進め方

現計画の計画期間は令和 4 年度から令和 8 年度までとなっていることから、次期計画の策定に向け、三重県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議において、審議が始まっています。

このことから、次期計画の策定の動きにも注視しながら、引き続き、15 年先を見すえた高校の学びと配置のあり方について協議を進めつつ、「令和 5 年度までの協議（今後の学びと配置のあり方について）」において、令和 10 年度の 3～4 学級減への対応の方向性を今年度示すこととなっていることから、「統合についての協議も行う」とする 1 学年 3 学級以下の高校に焦点を当てつつ、当協議会の方向性をとりまとめることとします。

※参考資料③：次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

3 今後の協議会開催スケジュール

(1) 令和7年度（3回開催）

○第1回協議会（本日7月28日）

- ・伊勢志摩地域の高等学校を取り巻く状況について
- ・これまでの協議をふまえた15年先の学びと配置の将来像（案）について

○第2回協議会（令和7年9月頃）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・令和7年度の伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（中間案）
- ・令和10年度および令和13年度～令和15年度までの学級減への対応について

○第3回協議会（令和7年11月頃）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・令和7年度の伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（最終案）

(2) 令和8年度（2回程度開催）

- ・次期計画の策定に向けた情報共有と意見交流
- ・令和13～15年度の学級減への対応に向けた協議

(令和4年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会で実施・集計)

伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 中学生を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶとき、学習面で重視すること)

- ・「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(45.1%)、「就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる」(29.3%)、「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる」(25.6%)の順となっている。

(高校を選ぶとき、学校生活全般で重視すること)

- ・「文化祭や体育祭などの学校行事」(66.5%)、「確かな学力を身につける授業」(65.5%)に続いて、「多くの友だちや先生と出会える」(55.9%)、「通学のしやすさ」(54.2%)を重視している。

(高校に期待する教育)

- ・「自分の将来を選択する力が身につく教育」(75.3%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力が身につく教育」(64.3%)、「基本的な知識が身につく教育」(58.6%)、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(58.3%)を期待している。

B 学級の規模について

- ・選んだ生徒が多い順に「3～4学級」(49.0%)、「1～2学級」(25.8%)、「5～6学級」(21.1%)、「7学級以上」(4.0%)となっている。
- ・生徒の多くが学びたい学級規模に関係なく、選んだ理由を「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」(50.5%)としている。

C 通学時間について

- ・選んだ生徒が多い順に「31～60分」(52.7%)、「30分以内」(26.3%)、「61～90分」(16.6%)、「91～120分」(2.8%)、「121分以上」(1.6%)となっている。

D 高校での地域の学習について

- ・選んだ生徒が多い順に「別の分野について」(37.2%)、「高校が所在する市町」(31.9%)、「伊勢志摩地域全体」(30.3%)となっている。

E 将来生活する場所について

- ・「まだ、決まっていない。わからない」(34.8%)が最も多く、続いて、「県外」(23.5%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(16.4%)、「地元」(13.5%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶとき、学習面で重視すること)

- ・「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(63.0%)に続いて、「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる」(21.4%)、「就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる」(14.4%)となっている。

(高校を選ぶとき、学校生活全般で重視すること)

- ・「確かな学力を身につける授業」(67.8%)をはじめ、「通学のしやすさ」(61.9%)、「多くの友だちや先生と出会える」(57.2%)、「一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育」(51.1%)を重視している。

(高校に期待する教育)

- ・「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」(73.5%)をはじめ、「進路選択の力を育む教育」(63.6%)、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につけることができる教育」(63.3%)、「主体的に学び続ける力を育む教育」(59.0%)を期待している。

B 15年先の伊勢志摩地域の県立高校のあり方について

- ・今後の伊勢志摩地域の高校について、「一定の統合は避けられない」(52.2%)が最も多く、続いて、「統合は避けるべき」(29.3%)、「必要な統合を進めるべき」(12.2%)となっている。

C 通学時間について

- ・選んだ保護者が多い順に、「31～60分」(62.9%)、「30分以内」(19.1%)、「61～90分」(13.6%)、「91～120分」(1.9%)、「121分以上」(0.4%)となっている。

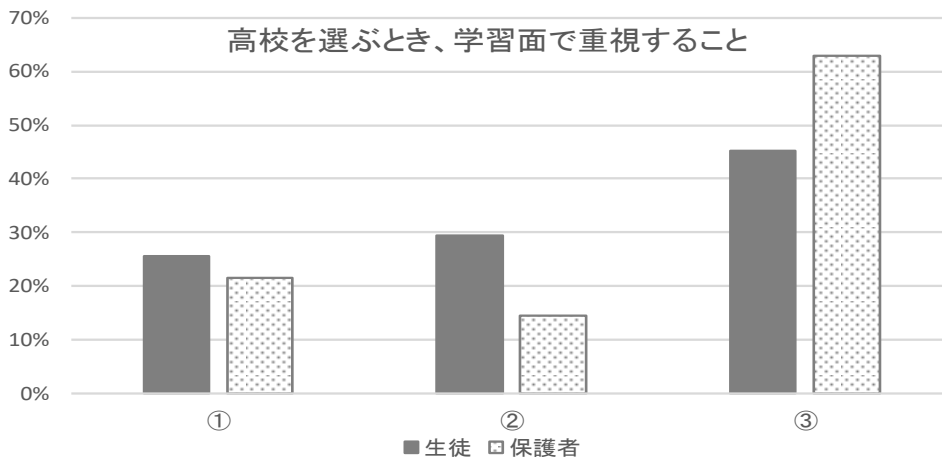
D 将来生活する場所について

- ・「本人の希望次第」(68.7%)が最も多く、続いて、「地元」(11.2%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(8.1%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較 (中学生 1,538 人、保護者 1,391 人)

(1) 高校を選ぶとき学習面で重視すること (回答は1つ、() は各回答者数に対する割合)

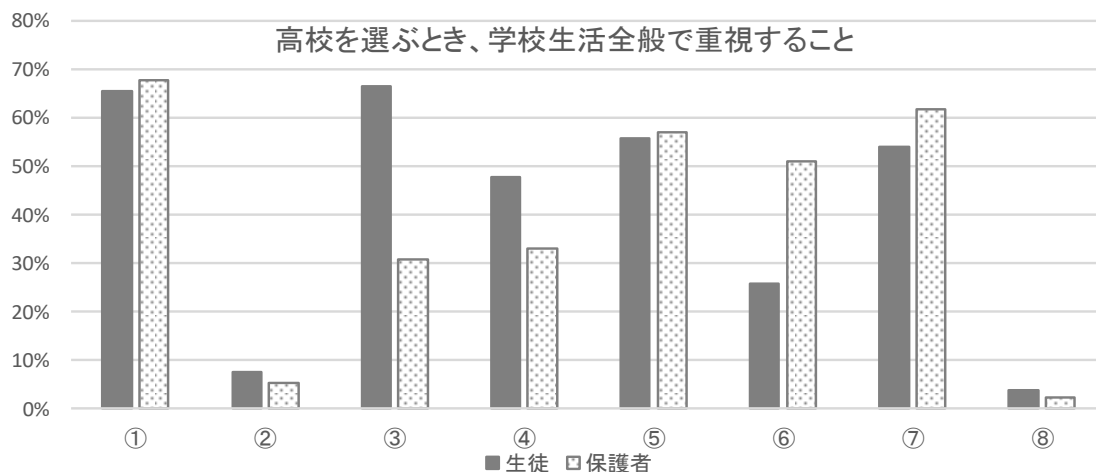
項目	生徒	保護者
①大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる	393 (25.6%)	298 (21.4%)
②就職につながる専門的な知識や技能、資格が取得できる	451 (29.3%)	200 (14.4%)
③進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる	694 (45.1%)	876 (63.0%)



(2) 高校を選ぶとき学校生活全般で重視すること

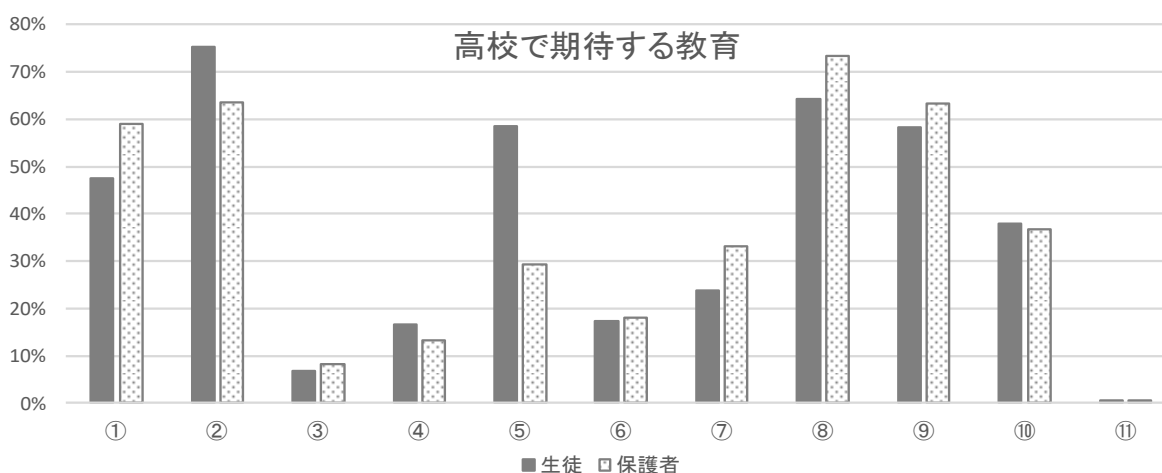
(回答は4つ以内、() は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①確かな学力を身につける授業が充実している	1007 (65.5%)	943 (67.8%)
②地域に密着した活動がある	117 (7.6%)	75 (5.4%)
③文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	1023 (66.5%)	429 (30.8%)
④入りたい部活動がある	735 (47.8%)	460 (33.1%)
⑤多くの友だちや先生と出会うことが期待できる	859 (55.9%)	795 (57.2%)
⑥一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる	398 (25.9%)	711 (51.1%)
⑦通学しやすい	833 (54.2%)	861 (61.9%)
⑧その他	59 (3.8%)	32 (2.3%)



(3) 入学する高校に期待する教育 (回答は5つ以内、() は各回答者数に対する割合)

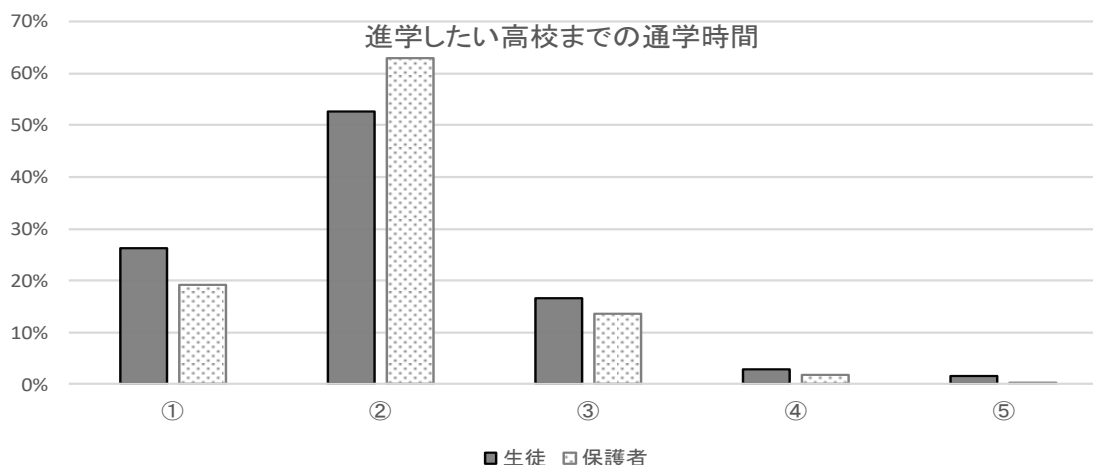
項目	生徒	保護者
①自ら学び続ける力が身につく教育	731 (47.5%)	820 (59.0%)
②自分の将来を選択する力が身につく教育	1158 (75.3%)	885 (63.6%)
③地域について学ぶ教育	103 (6.7%)	116 (8.3%)
④人権に対する意識が高まる教育	257 (16.7%)	185 (13.3%)
⑤基本的な知識が身につく教育	901 (58.6%)	408 (29.3%)
⑥ICTを積極的に活用する教育	267 (17.4%)	252 (18.1%)
⑦広く世界で活躍できる力が身につく教育	366 (23.8%)	462 (33.2%)
⑧社会性や協調性、コミュニケーション能力が身につく教育	989 (64.3%)	1022 (73.5%)
⑨社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	897 (58.3%)	880 (63.3%)
⑩特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	584 (38.0%)	511 (36.7%)
⑪その他	10 (0.7%)	9 (0.6%)



(4) 進学したい高校までの通学時間はどれくらいまでなら可能か。

(回答は1つ、() は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①30分以内	405 (26.3%)	266 (19.1%)
②31～60分	811 (52.7%)	875 (62.9%)
③61～90分	255 (16.6%)	189 (13.6%)
④91～120分	43 (2.8%)	27 (1.9%)
⑤121分以上	24 (1.6%)	6 (0.4%)



4 アンケート結果より

(1) 学び等、高校で重視したいこと

(ア) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が 60%以上の項目 (3 選択肢から 1 つ選択)

①進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できる教育

中学生 694 人 (45.1%) 保護者 876 (63.0%)

(イ) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が 50%以上の項目

(8 選択肢から 4 つまで選択、11 選択肢から 5 つまで選択)

①自分の将来を選択する力が身につく教育

中学生 1158 人 (75.3%) 保護者 885 人 (63.6%)

②社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育

中学生 989 人 (64.3%) 保護者 1022 人 (73.5%)

③確かな学力を身につける授業が充実している

中学生 1007 人 (65.5%) 保護者 943 人 (67.8%)

④文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

中学生 1023 人 (66.5%) 保護者 429 人 (30.8%)

⑤社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

中学生 897 人 (58.3%) 保護者 880 人 (63.3%)

⑥通学しやすい

中学生 833 人 (54.2%) 保護者 861 人 (61.9%)

※通学時間は、中学生と保護者とも「31～60 分」が最も多く選ばれている

⑦自ら学び続ける力が身につく教育

中学生 731 人 (47.5%) 保護者 820 人 (59.0%)

⑧基本的な知識が身につく教育

中学生 901 人 (58.6%) 保護者 408 人 (29.3%)

⑨多くの友だちや先生と出会うことが期待できる

中学生 859 人 (55.9%) 保護者 795 人 (57.2%)

⑩一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が期待できる

中学生 398 人 (25.9%) 保護者 711 人 (51.1%)

※地域学習について

・高校を選ぶときに重視すること：地域に密着した活動がある

中学生 117 人 (7.6%) 保護者 75 人 (5.4%)

・期待する教育：地域について学ぶ教育

中学生 103 人 (6.7%) 保護者 116 人 (8.3%)

・高校での地域の学習について

中学生：進学した高校が所在する市町について学んでみたい 490 人 (31.9%)

：伊勢志摩地域全体のことについて学んでみたい 466 人 (30.3%)

(2) 配置について

(ア) 中学生が望む高校の学級規模とその理由

・規模 ① 3～4 学級 754 人 (49.0%) ② 1～2 学級 397 人 (25.8%)

③ 5～6 学級 325 人 (21.1%) ④ 7 学級以上 62 人 (4.0%)

・理由 ① 多くの出会い 776 人 (50.5%) ② 関係の深まり 381 人 (24.8%)

③ 多様な選択 216 人 (14.0%) ④ 一人ひとりへのサポート 124 人 (8.1%)

⑤ その他 41 人 (2.7%)

(イ) 保護者が考える 15 年先の伊勢志摩地域における高校のあり方の方向性

① 一定の統合は避けられない 726 人 (52.2%)

② 統合は避けるべき 408 人 (29.3%)

③ 必要な統合を進めるべき 170 人 (12.2%)

※無回答 87 人 (6.3%)

令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）

（これまでの経緯）

- 本協議会は、平成17年に、伊勢志摩地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため設置されました。
- 本協議会では、令和4年度に協議のまとめを策定し、令和6年度の生徒減への対応の考え方を取りまとめました。令和5年度についても、引き続き、県立高等学校活性化計画（R4～R8）（以下、「計画」という。）に基づき、伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方についての協議を継続しているところです。

（基本的な考え方）

- 令和4年度の当地域の出生数は、前年度と比較して116人少ない1,083人となり、この子どもたちが高校へ入学する令和20年度の当地域の1学年の総学級数は、令和6年度入学生の29学級から11～14学級程度減少し、15～18学級程度となることが見込まれます。
- 当協議会は、少子化が一層進む中、当地域の高校の活性化について、令和4年度にまとめた「現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」をふまえ、スケジュール感に注意して協議を重ねていきます。

（専門学科・総合学科について）

- 伊勢志摩地域は自然豊かで歴史も古く、県内でも有数の観光地を有しています。また、水産業をはじめ、地域特有の産業も多く存在しています。
- こうしたことも背景にして、伊勢志摩地域には多様な職業系専門学科（農業、工業、商業、家庭、福祉、水産）が設置されており、卒業生の多くがこの地域の産業を支えているため、各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましいと考えます。
- 一方、今後の中学校卒業生数の減少を考えると、地域内だけでは多様な学びの選択肢の維持が難しくなることから、生徒の地域間の移動状況もふまえ、これまでより広い地域を視野に入れた議論が必要になると考えます。また、この場合、生徒や保護者の通学に関する負担が増すことが想定されるため、支援などの議論も必要となります。
- また、令和6年度には当地域の総合学科が1学級となることから、総合学科の特色である「幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視する」との視点から、当地域における総合学科のあり方や活性化について議論が必要です。

（普通科について）

- 当地域では、地域全体に普通科が配置され、それぞれが特色のある多様な学びを提供し、生徒の進学や就職のニーズに応えてきました。
- 少子化の進行により、それぞれの学校の規模も徐々に小さくなり、やむを得ず募集停止となる学校もあるなど、地域の高校の維持が難しい状況となっています。しかし、今後も、進学や就職など多様なニーズに応える普通科の学びの機会を確保していく必要があります。

- このことについては、引き続き、通信制高校のサテライト教室の設置や遠隔授業の活用などの方策を幅広く議論することが必要です。
- 一方、普通科高校には、国公立大学や難関私立大学への進学ニーズに応える役割もあり、こうした普通科高校が当地域に少なくとも1校は必要です。
- 進学ニーズに応える普通科高校は、各教科に配置できる教員数を勘案すると、英語、数学、国語において各学年を複数の教員が担当し、理科、地理歴史・公民において専門性の高い教員を各科目に配置できる1学年8学級規模が望ましいところです。また、地域全体の学級数が減少する中、やむを得ず学校規模を縮小する場合も、1学年6学級を下回らないよう一定規模を維持することが望ましいと考えます。

（部活動）

- 地域の生徒や保護者のニーズが高い部活動については、各学校において特色ある活動を展開していますが、県立高校の部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況は、学校規模と相関関係が見られるため、部活動の活性化の視点から1学年4学級以上が望ましいと考えます。

（1学年1～2学級の小規模校について）

- 当地域ではこれまで、高校の小規模化が進む中、特に地域に所在する学校を中心に、関係する市町が学校と連携して生徒の学びを支えてきました。
- 前計画（H29～R3）では、地方創生の考え方をふまえ、高校と地域や産業界が協力した取組を進める中、特に、小規模校においては学校ごとに市町関係者や地元産業界などで構成する協議会を設置し、学校の活性化に取り組みました。
- 対象となる学校では、地域の協力を得て「地域を学びの場とした学校独自の協働的な学習」に取り組むことにより、生徒の地域への理解が深まりました。また、継続的な習熟度別の学習指導等による基礎学力の定着や地域の支援を受けた学習等を通じ、生徒の進路実現が図られました。
- 一方で、地域の中学校卒業者の大幅な減少の影響もあり、地元への就職者数は減少するとともに、小規模校全体の入学者数と定員充足率は活性化取組前よりも低下しました。
- 現在、当地域では、現計画（R4～R8）においても、引き続き、学校と地域が連携して小規模校における学びの充実に取り組んでいますが、地域の少子化はより進行しており、学校規模はより小さくなるだけでなく、やむを得ず募集停止となった校舎もあります。
- また、令和6年度に1学年1学級となる学校では、教科指導の充実や部活動の活性化がより厳しくなることが想定されますが、地域全体で学校を支えながら、小規模校のメリットを生かして、できる限り子どもたちに魅力ある学びを提供していく必要があります。
- 令和4年度の当協議会のまとめでは、「令和6年度の生徒減については、学級減で対応することが望ましい」としましたが、今後も続く段階的な生徒減に対しては、令和6年度に1学年1学級となる3校の役割や教育実践を注視しながら、引き続き、地域全体の活性化を協議する中で、小規模校の統合も含めた今後のあり方について議論を進める必要があります。
- なお、現計画では、他の高校では担うことが難しい県内唯一の学科を有する水産高校について、引き続き、活性化に取り組むとされています。令和6年3月には新実習船「しろちどり」が竣工されますが、一方で、令和元年度以降5年連続して欠員を生じており、特に地域外からの入学者の増加に向けたさらなる取組が必要です。

(今後の協議の進め方)

- 今後も当地域では少子化が進行し、令和 8 年度に 1 学級、令和 10 年度に 3～4 学級、令和 13～15 年度に 3～5 学級程度の減が見込まれています。これらの学級減に対し、高校の統合を含めた対応を行う場合は、中学生の進路選択への影響等を勘案すると、遅くともその 3 年前までには、教育委員会において方針を定めることが求められます。そのため、令和 10 年度の学級減への対応については令和 7 年度までに、令和 13～15 年度の学級減への対応については令和 10 年度までに、当協議会としての方向性をまとめる必要があります。
- なお、専門高校間の統合など、大規模な施設・設備の整備が必要となる統合については、工期の確保はもとより、予算やそれにつながる学校のコンセプトの議論に係る時間も必要となるため、遅くとも 4 年前までには結論を出す必要があります。
- これからも現計画のもと、当協議会では引き続き、「現在の 9 校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」を基本として協議を進めることとします。
- また、少子化の進行と現在の高校の状況をふまえ、学校個別ではなく、伊勢志摩地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点から高校の活性化について協議を進めるとともに、現在の協議が令和 9 年度からの次期計画につながることも意識しながら、これからの子どもたちのための伊勢志摩地域の学びと配置のあり方について協議を重ねていきます。

次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けた動きについて

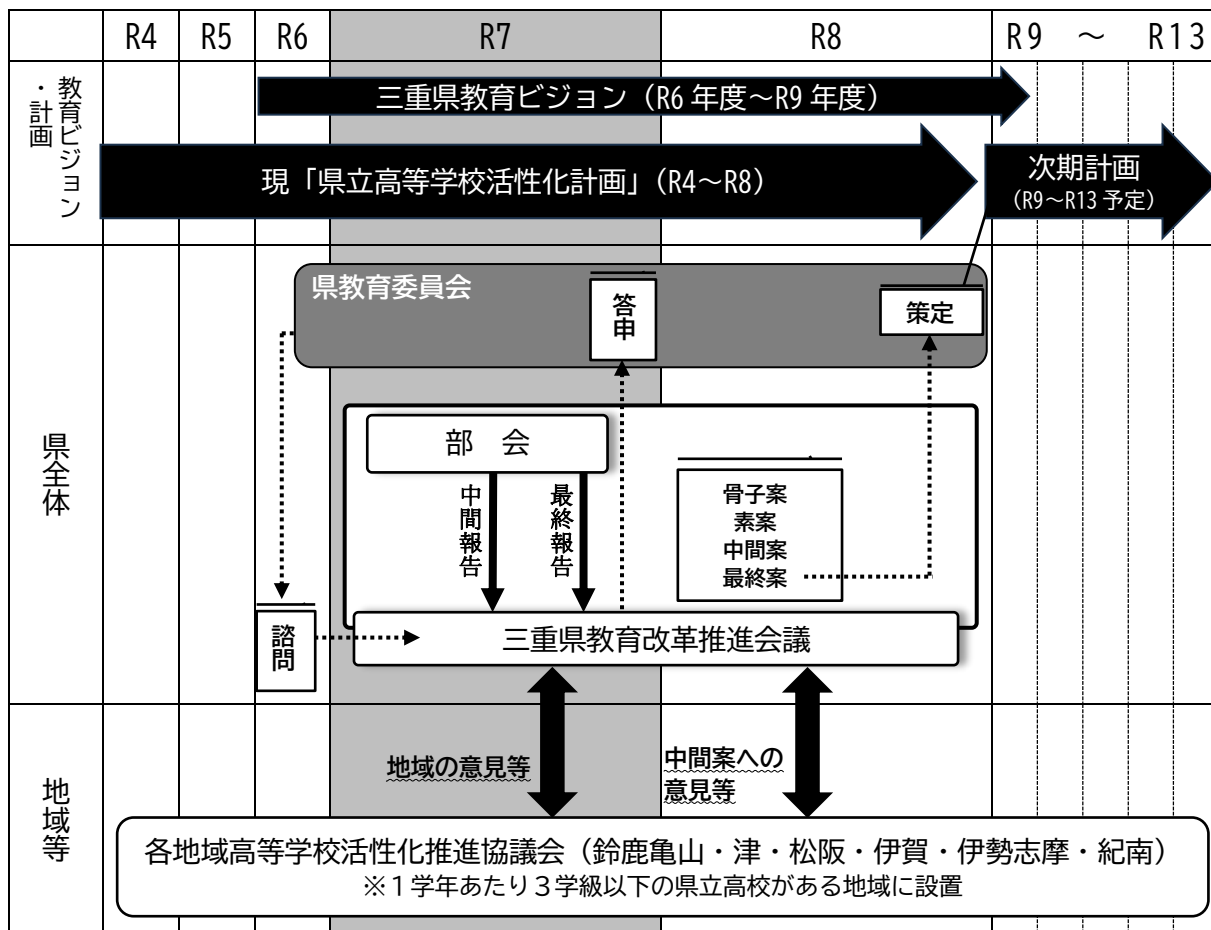
1 三重県教育改革推進会議における審議

現行の県立高等学校活性化計画（以下、「計画」という。）は令和4年から令和8年が計画期間となっていることから、県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議（以下「推進会議」という。）の審議を経て、次期計画を令和8年度末に策定します。

令和7年3月に開催された推進会議では、県教育委員会教育長から次期計画の策定に係る県立高校の学び並びに規模及び配置のあり方について諮問され、令和8年3月31日までに報告されることとなっています。

また、その審議については、推進会議に設置された専門的な調査研究を行うための部会（「県立高等学校の在り方調査研究部会」）において、今年度集中的に審議されることとなっています。

2 次期計画の策定に向けた動き（予定）



※令和7年度の推進会議（全体会）は2回程度、部会は4回程度の開催見込み

資料 9

	卒業 者数	伊勢志摩地域										地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専・ 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)			
		県立高校					私立高校・国立高専															
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 大会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立・ 高専 小計							
R7.3卒	1,029	92	187	87	74	79	10	1	2		544	152	79	32	263	807	51	12	3	75	141	1,029
		519 50.4%					1.0%	0.3%		1.2%	52.9%	231 22.4%		3.1%	25.6%	78.4%	5.0%	1.2%	0.3%	7.3%	13.7%	100%
R6.3卒	975	81	174	63	76	70	12	0	3		481	129	108	34	271	752	73	14	8	40	135	975
		464 47.6%					1.2%	0.3%		0.2%	49.3%	237 24.3%		3.5%	27.8%	77.1%	7.5%	1.4%	0.8%	4.1%	13.8%	100%

	卒業 者数	伊勢志摩地域										地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専・ 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)				
		県立高校					私立高校・国立高専																
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会校 舎	県立高校 小計	呈望館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計								
R7.3卒	119	6	8	14	6	16	12	2	3		67	15	10		36	103	4	0	0	1	5	11	119
		50						5		0		25		11									
		42.0%					10.1%	4.2%		0%	56.3%	21.0%		9.2%	30.3%	86.6%	3.4%	0%	0%	0.8%	4.2%	9.2%	100%
R6.3卒	106	13	10	11	6	7	14	2	2		65	7	5		21	86	3	1	3	7	14	6	106
		47						4		0		12		9									
		44.3%					13.2%	3.8%		0%	61.3%	11.3%		8.5%	19.8%	81.1%	2.8%	0.9%	2.8%	6.6%	13.2%	5.7%	100%

	卒業 者数	伊勢志摩地域										地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専 ・県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)							
		県立高校					私立高校・国立高専																			
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 校舎	県立高校 小計									皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立・ 高専 小計			
R7.3卒	284	28	33	19	31	13	5 1.8%	22	28	0 0%	179 63.0%	29	15	62 21.8%	241 84.9%	9 3.2%	1 0.4%	2 0.7%	13 4.6%	25 8.8%	18 6.3%	284 100%				
		124 43.7%						50 17.6%				44 15.5%											18 6.3%			
		38	42	20	18	20		27	41			0 0%	208 62.1%										37	25	62 18.5%	78 23.3%
R6.3卒	335	138 41.2%					2 0.6%	68 20.3%	0 0%	208 62.1%	62 18.5%	16 4.8%	78 23.3%	286 85.4%	7 2.1%	2 0.6%	5 1.5%	13 3.9%	27 8.1%	22 6.6%	335 100%					

	卒業 者数	伊勢志摩地域																地域内 合計①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専、 県外	地域外 合計②	その他 合計③	合計 (①+②+③)
		県立高校							私立高校・国立高专																
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 産業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高专 小計										
R7.3卒	157	19	13	10	8	6	2	0	0	9	67	7	12	5	24	91	28	7	1	17	53	13	157		
		56					0		9	67	19		5	24	91	28	7	1	17	53	13	157			
		35.7%					1.3%	0%		5.7%	42.7%	12.1%		3.2%	15.3%	58.0%	17.8%	4.5%	0.6%	10.8%	33.8%	8.3%	100%		
R6.3卒	145	19	8	16	9	12	2	0	1	5	72	7	9	2	18	90	27	6	1	7	41	14	145		
		64					1		5	72	16		2	18	90	27	6	1	7	41	14	145			
		44.1%					1.4%	0.7%		3.4%	49.7%	11.0%		1.4%	12.4%	62.1%	18.6%	4.1%	0.7%	4.8%	28.3%	9.7%	100%		

	卒業 者数	伊勢志摩地域														地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専・ 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		県立高校						私立高校・国立高専															
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 会校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立・ 高専 小計								
R7.3卒	69	4	15	5	9	2	0	0	0	7	42	6	5	3	14	56	6	0	0	2	8	5	69
		35 50.7%						0%	0%			10.1%	60.9%										
R6.3卒	68	2	10	8	8	6	0	0	0	4	38	8	2	2	12	50	5	0	0	5	10	7	68
		34 50.0%						0%	0%			5.9%	55.9%										

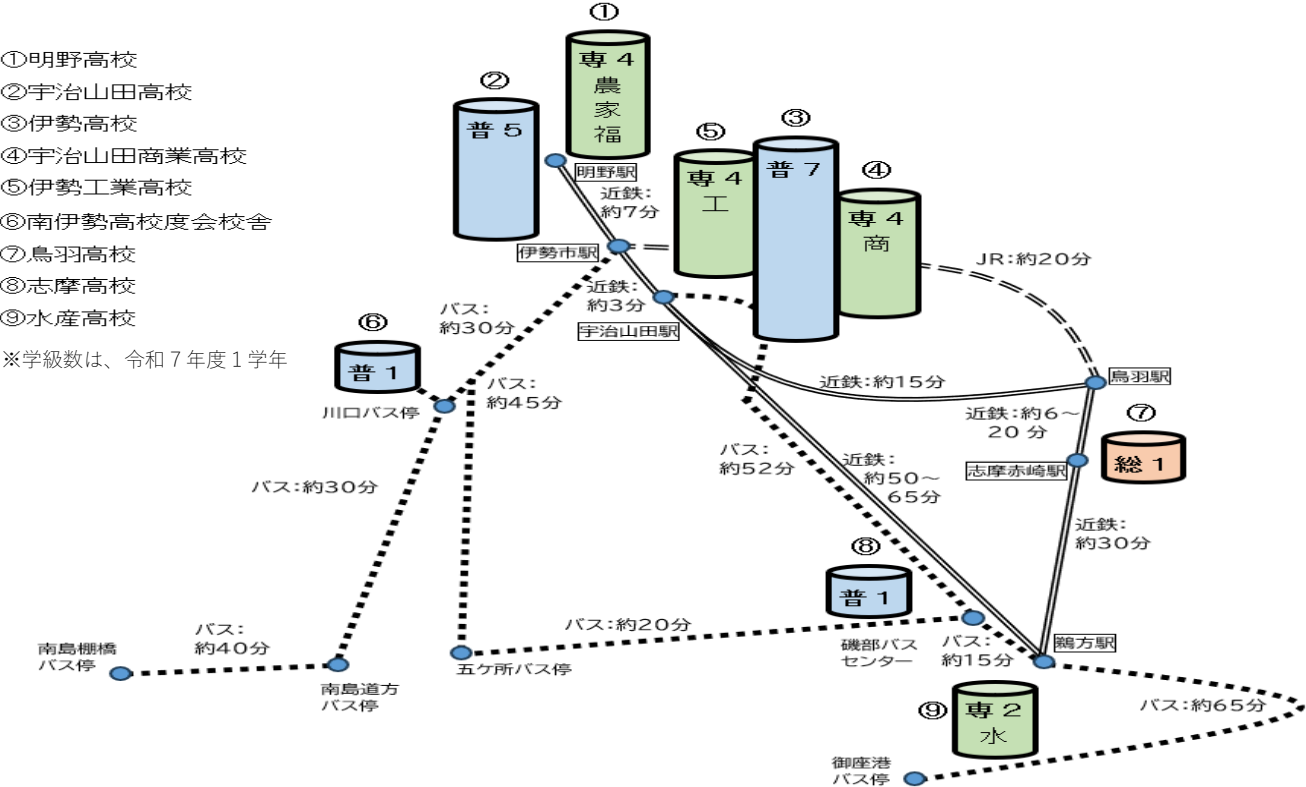
	卒業 者数	伊勢志摩地域																	地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地 域 県立	その他 県立	県内私 立・高 専・県 外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		県立高校					私立高校・国立高専																			
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 大会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立 ・高専 小計											
R7.3卒	43	3	2	9	2	3	0	0	1	3	23	7	1	1	9	32	4	0	1	4	9	2	43			
				44.2%		0%		2.3%	7.0%	53.5%		18.6%	2.3%	20.9%	74.4%	9.3%	0%	2.3%	9.3%	20.9%	4.7%	100%				
R6.3卒	52	4	5	0	7	8	0	4	7	3	1	32	8	12	4	0	12	44	0	1	3	2	6	2	52	
				46.2%		0%		13.5%	1.9%	62%		23.1%	0%	23.1%	84.6%	0%	1.9%	5.8%	3.8%	11.5%	3.8%	100%				

	卒業 者数	伊勢志摩地域													地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専・ 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		県立高校					私立高校・国立高専				島羽 商船	私立 ・高専 小計										
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 商業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 度会 各校舎			県立高校 小計	皇學館								
R7.3卒	52	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	6	12	24	1	1	7	33	7	52	
		4					0	0	1	5	6	1	7	23.1%	46.2%	1.9%	1.9%	13.5%	63.5%	13.5%	100%	
		7.7%					0.0%	0.0%	1.9%	9.6%	11.5%	1.9%	13.5%									
R6.3卒	46	2	0	1	0	1	0	0	0	0	4	7	5	11	26	0	1	5	32	3	46	
		4					0	0	0	4	7	0	7	23.9%	56.5%	0.0%	2.2%	10.9%	69.6%	6.5%	100%	
		8.7%					0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	15.2%	0.0%	15.2%									

	卒業 者数	伊勢志摩地域																	地域内 合計 ①	松阪 地域 県立	津 地域 県立	その他 県立	県内私 立・高専・ 県外	地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
		県立高校					私立高校・国立高専																			
		宇治 山田	伊勢	伊勢 工業	宇治 山田 産業	明野	鳥羽	志摩	水産	南伊勢 商会 校舎	県立高校 小計	皇學館	伊勢 学園	鳥羽 商船	私立・ 高専 小計											
R7.3卒	1,753	154	259	145	130	119	29	25	34	32	927	216	128	71	415	1,342	126	21	8	119	274	137	1,753			
				807		1.7%		3.4%	1.8%		52.9%	19.6%	4.1%	23.7%	76.6%	7.2%	1.2%	0.5%	6.8%	15.6%	7.8%	100%				
R6.3卒	1,727	159	249	119	124	124	30	33	50	12	900	198	158	63	419	1,319	141	24	21	79	265	143	1,727			
				775		1.7%		4.8%	0.7%		52.1%	20.6%	3.6%	24.3%	76.4%	8.2%	1.4%	1.2%	4.6%	15.3%	8.3%	100%				

–38–

(1) 高校配置図



(2) 通学方法別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

学校名 通学方法		宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計
徒歩のみ		28	10	7	4	8	5	13	10	14	99
		4.8%	1.2%	1.6%	0.8%	1.7%	6.4%	9.6%	11.0%	9.0%	3.0%
自転車のみ		222	473	229	180	134	28	15	3	53	1,337
		37.8%	56.7%	51.6%	34.9%	28.8%	35.9%	11.0%	3.3%	34.2%	40.4%
JRのみ		47	2	8	28	0	0	1	0	0	86
		8.0%	0.2%	1.8%	5.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	2.6%
私鉄のみ		149	27	29	0	127	0	42	42	0	416
		25.3%	3.2%	6.5%	0.0%	27.3%	0.0%	30.9%	46.2%	0.0%	12.6%
バスのみ		34	36	10	49	0	24	5	22	48	228
		5.8%	4.3%	2.3%	9.5%	0.0%	30.8%	3.7%	24.2%	31.0%	6.9%
船のみ		0	1	0	0	0	0	1	0	1	3
		0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.6%	0.1%
JRと	私鉄	1	0	0	20	22	0	9	0	0	52
		0.2%	0.0%	0.0%	3.9%	4.7%	0.0%	6.6%	0.0%	0.0%	1.6%
	バス	1	6	0	1	0	1	0	0	0	9
		0.2%	0.7%	0.0%	0.2%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	自転車	20	53	19	60	2	0	0	0	0	154
		3.4%	6.4%	4.3%	11.6%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%
私鉄と	バス	10	13	3	10	38	1	0	2	11	88
		1.7%	1.6%	0.7%	1.9%	8.2%	1.3%	0.0%	2.2%	7.1%	2.7%
	船	1	0	0	0	1	0	0	1	5	8
		0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%	3.2%	0.2%
	自転車	70	182	112	139	123	0	38	0	0	664
		11.9%	21.8%	25.2%	26.9%	26.4%	0.0%	27.9%	0.0%	0.0%	20.1%
バスと	船	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.1%
	自転車	3	22	24	8	0	4	0	0	8	69
		0.5%	2.6%	5.4%	1.6%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	5.2%	2.1%
船と	自転車	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
		0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.1%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)		2	7	3	17	11	15	8	11	15	89
		0.3%	0.8%	0.7%	3.3%	2.4%	19.2%	5.9%	12.1%	9.7%	2.7%
合計		588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308

(3) 通学費用別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計	積み上げ
不要	258	485	242	184	152	48	33	24	76	1,502	1,502
	43.9%	58.2%	54.5%	35.7%	32.6%	61.5%	24.3%	26.4%	49.0%	45.4%	45.4%
3,000円以内	33	24	15	14	26	0	1	3	0	116	1,618
	5.6%	2.9%	3.4%	2.7%	5.6%	0.0%	0.7%	3.3%	0.0%	3.5%	48.9%
5,000円以内	126	131	68	92	153	4	15	37	0	626	2,244
	21.4%	15.7%	15.3%	17.8%	32.8%	5.1%	11.0%	40.7%	0.0%	18.9%	67.8%
7,000円以内	108	103	73	110	71	1	74	4	0	544	2,788
	18.4%	12.4%	16.4%	21.3%	15.2%	1.3%	54.4%	4.4%	0.0%	16.4%	84.3%
9,000円以内	15	22	7	23	16	4	5	1	3	96	2,884
	2.6%	2.6%	1.6%	4.5%	3.4%	5.1%	3.7%	1.1%	1.9%	2.9%	87.2%
11,000円以内	8	10	6	12	8	3	4	2	21	74	2,958
	1.4%	1.2%	1.4%	2.3%	1.7%	3.8%	2.9%	2.2%	13.5%	2.2%	89.4%
13,000円以内	17	23	19	22	10	6	3	7	6	113	3,071
	2.9%	2.8%	4.3%	4.3%	2.1%	7.7%	2.2%	7.7%	3.9%	3.4%	92.8%
15,000円以内	19	26	10	30	12	6	0	11	14	128	3,199
	3.2%	3.1%	2.3%	5.8%	2.6%	7.7%	0.0%	12.1%	9.0%	3.9%	96.7%
15,001円以上	4	10	4	29	18	6	1	2	35	109	3,308
	0.7%	1.2%	0.9%	5.6%	3.9%	7.7%	0.7%	2.2%	22.6%	3.3%	100.0%
合計	588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308	3,308

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R7. 5. 1 学校基本調査より

時間 \ 学校名	宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計	積み上げ
15分以内	50	183	103	74	53	24	19	15	47	568	568
	8.5%	21.9%	23.2%	14.3%	11.4%	30.8%	14.0%	16.5%	30.3%	17.2%	17.2%
30分以内	198	264	149	132	158	23	22	30	36	1,012	1,580
	33.7%	31.7%	33.6%	25.6%	33.9%	29.5%	16.2%	33.0%	23.2%	30.6%	47.8%
45分以内	135	171	60	86	100	16	21	28	10	627	2,207
	23.0%	20.5%	13.5%	16.7%	21.5%	20.5%	15.4%	30.8%	6.5%	19.0%	66.7%
60分以内	89	100	63	92	74	11	55	15	33	532	2,739
	15.1%	12.0%	14.2%	17.8%	15.9%	14.1%	40.4%	16.5%	21.3%	16.1%	82.8%
90分以内	88	100	60	118	69	1	19	3	12	470	3,209
	15.0%	12.0%	13.5%	22.9%	14.8%	1.3%	14.0%	3.3%	7.7%	14.2%	97.0%
120分以内	26	15	8	12	8	3	0	0	8	80	3,289
	4.4%	1.8%	1.8%	2.3%	1.7%	3.8%	0.0%	0.0%	5.2%	2.4%	99.4%
121分以上	2	1	1	2	4	0	0	0	9	19	3,308
	0.3%	0.1%	0.2%	0.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	0.6%	100.0%
合計	588	834	444	516	466	78	136	91	155	3,308	3,308

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R7. 5. 1 学校基本調査より

費用 \ 学校名	宇治山田	伊勢	伊勢工業	宇治山田 商業	明野	南伊勢 度会校舎	鳥羽	志摩	水産	合計
下宿	0	3	2	12	0	0	0	0	36	53
寄宿舍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	3	2	12	0	0	0	0	36	53

伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）のスクール・ポリシー

（１）普通科・普通科系専門学科校

①グラデュエーション・ポリシー（育みたい資質・能力、生徒の姿）

高校名	内容
宇治山田	○志を持って、自ら学び、判断し、行動することができる生徒 ○豊かな人間性を備え、自らを律し、他者を思いやり、他者と協力することができる生徒 ○目標に向かって、失敗を恐れず努力し、諦めることなく挑戦を継続することができる生徒
伊勢	○高い志を抱いて、社会に貢献できる人を育てます。 ○自己の実現のために、自ら学び、考え、行動し、粘り強く努力する人を育てます。 ○知的探究心にあふれ、情操豊かで創造性に富んだ人を育てます。
南伊勢	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
志摩	○地域に貢献したいという意欲を持つ生徒 ○自律・協調・敬愛の精神を持って社会で活躍できる生徒

②カリキュラム・ポリシー（高校での教育活動）

高校名	内容
宇治山田	○各教科や総合的な探究の時間、学校行事や生徒会活動など、学校生活全般にわたって、生徒が主体となって考え、協力して取り組む活動を充実し、学力の向上とともに、主体性、社会性、協調性などの育成に取り組みます。 ○国公立大学をはじめとした生徒の進路希望が実現できるよう、基礎・基本を大切にし、授業や指導方法の研究に取り組み、学校全体で計画的な指導を進めます。 ○生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談の充実に取り組みとともに、人権教育やホームルーム活動、学校行事等を通じて、自他を大切にする心や行動力の育成に取り組みます。
伊勢	○授業内容や指導方法について研究を進め、主体的・対話的で深い学びにつながる、よりよい教育を提供します。 ○教育環境の変化に的確に対応するとともに、個々の生徒の希望に応じることができる教育課程を編成し、PDCA サイクルによる継続的な検証・改善に努めます。 ○第Ⅲ期のスーパーサイエンスハイスクールとして、科学的リテラシーを持ち、持続可能な地域社会に貢献する人材を育成するカリキュラムの検証・改善を進めるとともに、取組を深化させていきます。 ○マナーやルールを重視し、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会性の陶冶を図ります。 ○特別教育活動を活性化させ、生徒の自主的な活動を促進することを通して、社会性とリーダーシップを育成します。 ○生徒の学ぶ力の育成に努めるとともに、多様な学習機会を提供し、生徒の進路実現につなげます。 ○生命を大切にし、人権を尊重する教育を進めるとともに、ウェルビーイングを求め、たくましく生きる力を育成します。
南伊勢	○自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を育む。 ○高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる力を育む。 ○個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ○基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ○校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行う。
志摩	○基礎学力を向上させ、生徒の進路希望に応じた学習指導を行うとともに、創造的・論理的に考える力を育む学びを進め、より高度な学力獲得を目指す生徒にも応える体制を整える。 ○社会生活を営む上で欠かせない社会常識と行動力を身につけた、即戦力となる人材を育てる。 ○地域探究学習「志摩学」や地域と関わる活動を通して、地域の実情を理解し、地域と連携し活性化に取り組む姿勢を育てる。

③アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒の姿）

高校名	内容
宇治山田	○自ら考え、学ぶことができる生徒 ○他者を思いやり、他者と協力することができる生徒 ○目標に向かって、挑戦し続けることができる生徒
伊勢	○将来の進路実現に向けて、高い目標を掲げて学業に真摯に取り組む生徒 ○自主的・自律的に行動できる生徒 ○他者との関わりを大切にし、互いの個性を認め合いながら、協働して物事に取り組むことができる生徒
南伊勢	○目的意識を明確にもち、自己実現に向けて意欲的に取り組める者 ○体験学習など、地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動に積極的に取り組む意欲のある者
志摩	○目標を持って学習する意欲ある生徒 ○興味関心を持った課題について探究しようとする生徒 ○基本的な生活習慣と思いやりの心が身についた生徒

(2) 専門学科校

① グラデュエーション・ポリシー（育みたい資質・能力、生徒の姿）

高校名	内容
伊勢工業	○ 基本的生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒（ひとづくり） ○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒（ものづくり） ○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
宇治山田商業	○ 自他を尊重し、規範意識を大切にする人間性豊かな生徒 ○ 自己実現に向けて主体的・創造的・積極的に挑戦し、活力ある姿勢や態度を有する生徒 ○ 探究的な学習、地域や国際交流活動等を通して「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等を備えている生徒
明野	○ 各分野の資格等を積極的に習得し、専門知識や技能を生かし、自立した社会人として地域に貢献し、地域を支え、地域とともに生きていくことができる生徒 ○ 様々な課題を自分事として捉え、主体的に行動し、自己実現を図ることができる生徒 ○ 学ぶ楽しさを知り、社会的・職業的自立に向けた取組ができる生徒 ○ 社会人としてのマナーを身につけるとともによりよく生きる力を自ら育むことのできる生徒
水産	○ 水産・海洋に関する知識・技術の習得を通し、水産・海洋関連分野のリーダーとして活躍できる生徒 ○ 特に、以下に示す「3つの力」を身につけた生徒 ① 考え抜く力 ② チームで働く力 ③ 前に踏み出す力

② カリキュラム・ポリシー（高校での教育活動）

高校名	内容
伊勢工業	○ 「ものづくり」が好きで、学校での学習や地域での体験を基に自信が成長できる、生徒から望まれる学校づくりを行う。その「ものづくり」をとおして生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ成長できる場を設ける。 ○ 分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。 ○ 基本的生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直で、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。
宇治山田商業	○ 生徒の自主性、主体性、創造性を育み、積極的に自己を高めていくため、ICT機器の効果的な活用による学習活動の工夫や学校行事、部活動の振興等を通じ、人間性豊かで活力に満ちた学校生活の実現に努める。 ○ 地域との連携を通じた教育活動を充実させ、生徒の課題解決力や探究力、自己表現力の向上や、キャリア教育の更なる充実を図るとともに、生徒の希望・適性に応じた進路実現につなげ、地域社会の発展に貢献できる自立した人材を輩出する商業高校を目指す。
明野	○ 各分野において実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人を育成する。 ○ 生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、生徒が自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。
水産	○ 水産・海洋関連分野で活躍できる知識と技術を習得するため、水産科の専門科目を適切に配置し、3年間をとおして系統的・組織的な教育活動を行う。 ○ 専門的な学習の基盤となる基礎学力の定着を図るため、少人数による授業を実施するとともに、到達度テストや個別最適な課題等により基礎学力の向上を図る。 ○ 地域や大学と連携した授業や実習、探究活動、インターンシップ等を積極的に実施し、キャリア教育の充実を図る。 ○ 実践的な教育を通じて専門的な知識と技術を習得し、水産、海洋、船舶、食品加工、増養殖等の各分野で活躍するための資格取得を推奨し支援する。

③アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒の姿）

高校名	内容
伊勢工業	○「ものづくり」をとおして自己実現したいと考えている生徒 ○伊勢志摩を中心とした地域で活躍し、地域のリーダーになりたいと考える生徒 ○自他の命を尊重し、学業、部活動や校外活動に取り組みたい生徒
宇治山田商業	○学習意欲が高く、入学後も目標達成に向けた努力を継続できる生徒 ○探究活動に意欲的に取り組むことができる生徒 ○スポーツ・文化活動やボランティア活動、生徒会活動等に意欲をもって取り組む姿勢を有する生徒 ○学科の特性を生かして、大学進学や就職等の進路希望を実現しようとする生徒
明野	〔生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科共通〕 ○基本的生活習慣及び社会性が身についている者 ○スポーツや文化活動等に優れており、入学後も継続して活動する者 （生産科学科） ○将来、農業自営者となり、地域のリーダーを目指す者 ○動植物の飼育・栽培に興味・関心があり、積極的に実習に取り組むことができる者 ○農業に関連した職業や農業関連学科への進学を目指す者 ○資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 （食品科学科） ○将来、食品関連会社で製造や研究に取り組む技術者を目指す者 ○食の安全への意識が強く、清潔な身なりや整理整頓ができる者 ○与えられた仕事を最後までやり遂げる忍耐力と責任感がある者 ○資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 （生活教養科） ○衣・食に興味・関心があり、高校生活にしっかりと目的・目標をもつ者 ○将来、専門性を生かした就職や進学を目指す者 ○全ての教科に対して、真面目かつ意欲的で、資格取得に積極的に取り組むことができる者 （福祉科） ○福祉に興味・関心があり、意欲的に学習に取り組むことができる者 ○将来、福祉分野で活躍しようという希望をもっている者 ○資格取得に積極的に取り組むことができる
水産	○規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ○水産・海洋関連分野に興味・関心を有する生徒 ○他者と協働しながら、何事に対しても粘り強く、取り組むことができる生徒 ○向上心を持ち、新たなことに挑戦しようとする意欲を持つ生徒

(3) 総合学科校

① グラデュエーション・ポリシー（育みたい資質・能力、生徒の姿）

高校名	内容
鳥羽	○地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する鳥羽高生 ○進路実現に向け、基礎的・総合的な学力を身につけた鳥羽高生 ○社会的・職業的自立に向け、必要な規範意識と態度を身につけた鳥羽高生 ○これからの社会で活躍するための「7つの力」を身につけた鳥羽高生 ①行動力 ②思考力 ③コミュニケーション能力 ④創造力 ⑤表現力 ⑥自己肯定力 ⑦自己管理能力

② カリキュラム・ポリシー（高校での教育活動）

高校名	内容
鳥羽	○地域社会で貢献できる人材育成を目指し、体験的な教育活動を推進 ○生徒一人ひとりの進路実現を目指し、基礎・基本の定着を図る取組を推進 ○自己の生き方・在り方の認識を目指し、自他の理解や良好な人間関係形成するための人権意識を高める学習活動を推進 <具体的な教育活動> ・探究活動（産業社会と人間、総合的な探究の時間、鳥羽学）、系列授業、自由選択科目、就業体験学習（観光・福祉）等 ・少人数教育、基礎学力診断、基礎力勉強会 等 ・人権 LHR、部活動、交流、講演 等

③ アドミッション・ポリシー（入学時に求める生徒の姿）

高校名	内容
鳥羽	○総合学科の学習内容に興味・関心があり、意欲を持って学習に取り組める生徒 ○学習を通して、積極的に進路実現を目指す生徒 ○部活動またはボランティア活動等について、積極的に活動する意欲のある生徒 ○規範意識や基本的生活習慣を身につけ、学校生活に積極的に取り組める生徒 ○将来、地域社会で活躍し、地域に貢献しようとする意欲のある生徒

学校教育法施行規則 第百三条の二

高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。

- 一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針
- 三 入学者の受入れに関する方針

3つの方針（スクール・ポリシー）

① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

各高等学校に期待される社会的役割等に基づき、生徒の卒業後の姿を見据えて、学校教育活動を通じて生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを定める基本的な方針となるもの

② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施し、学習評価を行うのかを定める基本的な方針となるもの

③ 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

各高等学校に期待される社会的役割等や、育成を目指す資質・能力に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に基づく教育内容等を踏まえ、入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針となるもの

伊勢志摩地域の県立高校(全日制)卒業生の進路状況

資料12

(1) 令和7年3月卒

学校名	学科	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	卒業者数
明野	農業 家庭 福祉	24	16	48	66	3	157
		15.3%	10.2%	30.6%	42.0%	1.9%	100.0%
宇治山田	普通	170	8	16	1	2	197
		86.3%	4.1%	8.1%	0.5%	1.0%	100.0%
伊勢	普通	242	8	3	2	19	274
		88.3%	2.9%	1.1%	0.7%	6.9%	100.0%
宇治山田商	商業	89	4	22	43	0	158
		56.3%	2.5%	13.9%	27.2%	0.0%	100.0%
伊勢工	工業	15	0	16	118	0	149
		10.1%	0.0%	10.7%	79.2%	0.0%	100.0%
南伊勢 (度会・南勢)	普通	3	1	3	24	0	31
		9.7%	3.2%	9.7%	77.4%	0.0%	100.0%
鳥羽	総合	1	4	8	22	2	37
		2.7%	10.8%	21.6%	59.5%	5.4%	100.0%
志摩	普通	9	3	13	20	2	47
		19.1%	6.4%	27.7%	42.6%	4.3%	100.0%
水産	水産	4	9	8	28	0	49
		8.2%	18.4%	16.3%	57.1%	0.0%	100.0%

普通科計	424	20	35	47	23	549
	77.2%	3.6%	6.4%	8.6%	4.2%	100.0%
専門学科計	132	29	94	255	3	513
	25.7%	5.7%	18.3%	49.7%	0.6%	100.0%
総合学科計	1	4	8	22	2	37
	2.7%	10.8%	21.6%	59.5%	5.4%	100.0%
合計	557	53	137	324	28	1,099
	50.7%	4.8%	12.5%	29.5%	2.5%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大等」は専攻科、高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

(2) 令和6年3月卒

学校名	学科	四年制大学	短大等	専門学校等	就職	その他	卒業者数
明野	農業 家庭 福祉	12	15	37	81	5	150
		8.0%	10.0%	24.7%	54.0%	3.3%	100.0%
宇治山田	普通	169	7	11	2	4	193
		87.6%	3.6%	5.7%	1.0%	2.1%	100.0%
伊勢	普通	239	1	4	1	28	273
		87.5%	0.4%	1.5%	0.4%	10.3%	100.0%
宇治山田商	商業	73	7	31	40	3	154
		47.4%	4.5%	20.1%	26.0%	1.9%	100.0%
伊勢工	工業	18	4	21	113	1	157
		11.5%	2.5%	13.4%	72.0%	0.6%	100.0%
南伊勢 (度会・南勢)	普通	4	1	6	21	3	35
		11.4%	2.9%	17.1%	60.0%	8.6%	100.0%
鳥羽	総合	3	4	8	24	0	39
		7.7%	10.3%	20.5%	61.5%	0.0%	100.0%
志摩	普通	6	4	17	22	0	49
		12.2%	8.2%	34.7%	44.9%	0.0%	100.0%
水産	水産	2	17	8	29	2	58
		3.4%	29.3%	13.8%	50.0%	3.4%	100.0%

普通科計	418	13	38	46	35	550
	76.0%	2.4%	6.9%	8.4%	6.4%	100.0%
専門学科計	105	43	97	263	11	519
	20.2%	8.3%	18.7%	50.7%	2.1%	100.0%
総合学科計	3	4	8	24	0	39
	7.7%	10.3%	20.5%	61.5%	0.0%	100.0%
合計	526	60	143	333	46	1,108
	47.5%	5.4%	12.9%	30.1%	4.2%	100.0%

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワナダ・フォーグ・ル）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No. 19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

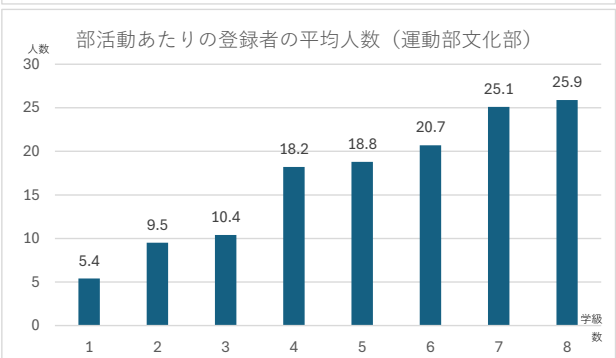
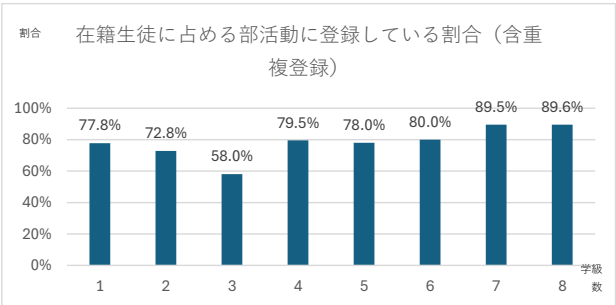
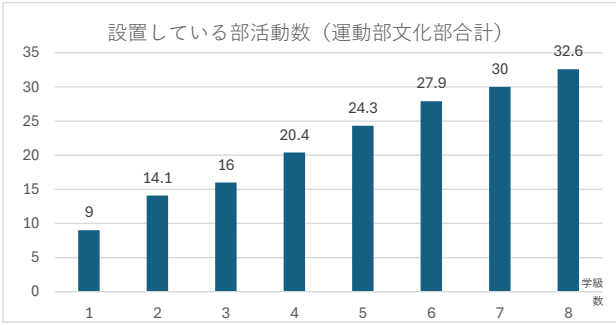
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
設置部活動の種類（～No. 20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワナダ・フォーグ・ル）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No. 19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



(1) 紀北地域の再編

実施年度	再編前（前年度）					再編後（実施年度）				備考
	学校名	科・コース	学級数 （入学定員）			学校名	科・コース	学級数 （入学定員）		
H13	尾鷲高校	普通科 商業科	5 2	7 （280人）	⇒	尾鷲高校	普通科 商業科 システム工学科	5 2 1	8 （320人）	
	尾鷲工業高校	機械設備システム科 電気情報システム科	1 1	2 （80人）						
H17	尾鷲高校	普通科 プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	3 1 2 1	7 （280人）	⇒	尾鷲高校	普通科 プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	3 1 2 1	8 （320人）	
	長島高校	普通科 福祉・情報コース	1 1	2 （80人）		尾鷲高校長島校	普通科	1		
H20	尾鷲高校	普通科 プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	3 1 2 1	8 （320人）	⇒	尾鷲高校	普通科 プログレッシブコース 情報ビジネス科 システム工学科	3 1 2 1	7 （280人）	
	尾鷲高校長島校	普通科	1							

(2) 松阪地域の再編

実施年度	再編前（前年度）						再編後（実施年度）					備考
	学校名	科・コース	学級数 （入学定員）				学校名	科・コース	学級数 （入学定員）			
H21	相可高校	普通科 生産経済科 環境創造科 食物調理科	3 1 1 1	6 （240人）		→	相可高校	普通科 生産経済科 環境創造科 食物調理科	4 1 1 1	7 （280人）		
	宮川高校	普通科	2	2 （80人）								

(3) 伊勢志摩地域の再編

実施年度	再編前（前年度）					再編後（実施年度）				備考
	学校名	科・コース	学級数 (入学定員)			学校名	科・コース	学級数 (入学定員)		
H16	南勢高校	普通科	2	2 (80人)	⇒	南伊勢高校南勢校舎	普通科	2	2 (80人)	
	度会高校	普通科	2	2 (80人)		度会校舎	普通科	2	2 (80人)	
	南島高校	普通科	1	1 (40人)		南島校舎	普通科	1	1 (40人)	
H19	南伊勢高校南勢校舎	普通科	2	2 (80人)	⇒	南伊勢高校南勢校舎	普通科	2	2 (80人)	
	度会校舎	普通科	2	2 (80人)		度会校舎	普通科	2	2 (80人)	
	南島校舎	普通科	1	1 (40人)						
R6	南伊勢高校南勢校舎	普通科	1	1 (40人)	⇒	南伊勢高校南勢校舎				
	度会校舎	普通科	1	1 (40人)		度会校舎	普通科	1	1 (40人)	

(4) 伊賀地域の再編

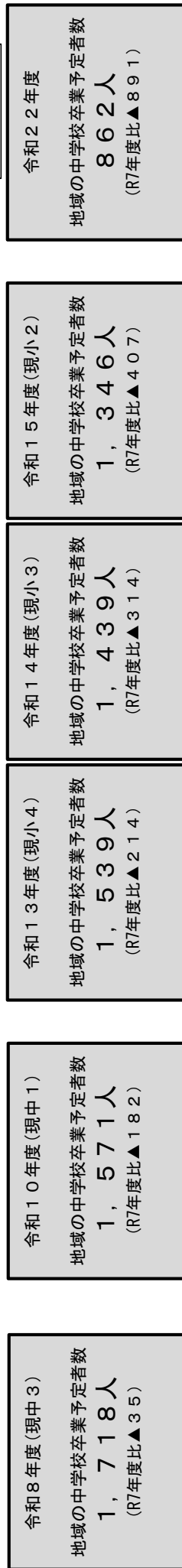
実施年度	再編前（前年度）					再編後（実施年度）				備考
	学校名	科・コース	学級数 （入学定員）			学校名	科・コース	学級数 （入学定員）		
H21	上野農業高校	食農科学科 景観園芸科	1 1	2 (8 0 人)	⇒	伊賀白鳳高校	機械科	1	7 (2 8 0 人)	※前期選抜では学科別、後期選抜ではくくり募集を実施
	上野工業高校	機械科	1							
		住環境工学科	1							
		電子機械科	1							
上野商業高校	情報ビジネス科	1	4 (1 6 0 人)	⇒	名張青峰高校	普通科	7	8 (3 2 0 人)		
	健康生活科	1								
	福祉科	1								
	普通科	1								

(5) 紀南地域の再編

実施年度	再編前（前年度）					再編後（実施年度）				備考
	学校名	科・コース	学級数 （入学定員）			学校名	科・コース	学級数 （入学定員）		
R7	木本高校	普通科 総合学科	3 1	4 （160人）	→	熊野青藍高校木本校舎	普通科 総合学科	3 1	4 （160人）	
	紀南高校	普通科	2	2 （80人）		紀南校舎	総合学科	1	1 （40人）	

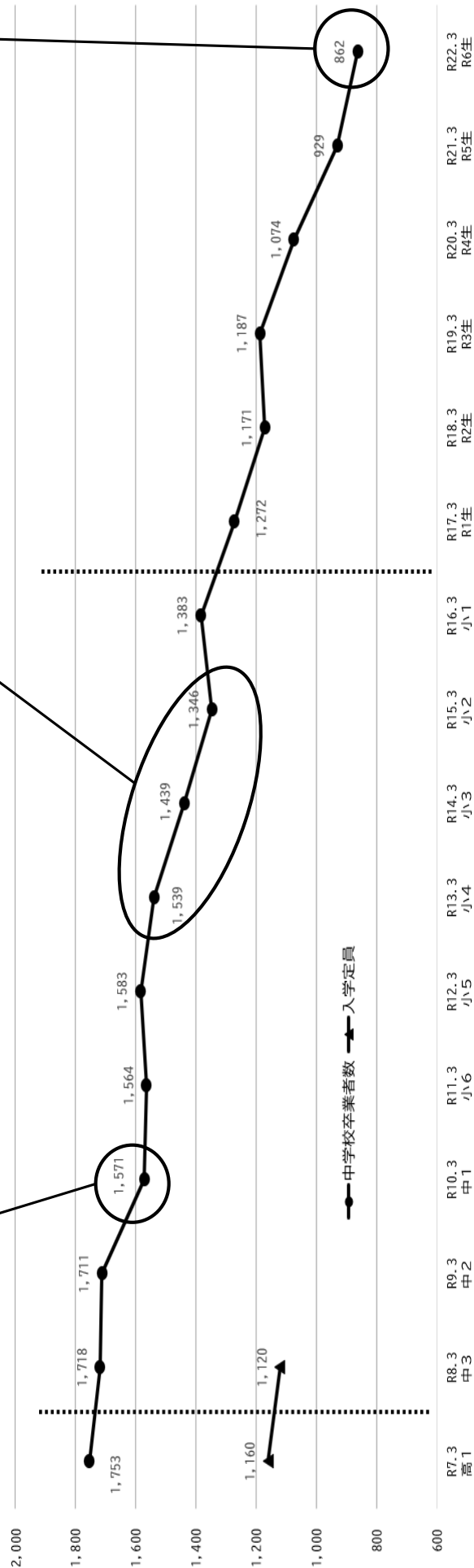
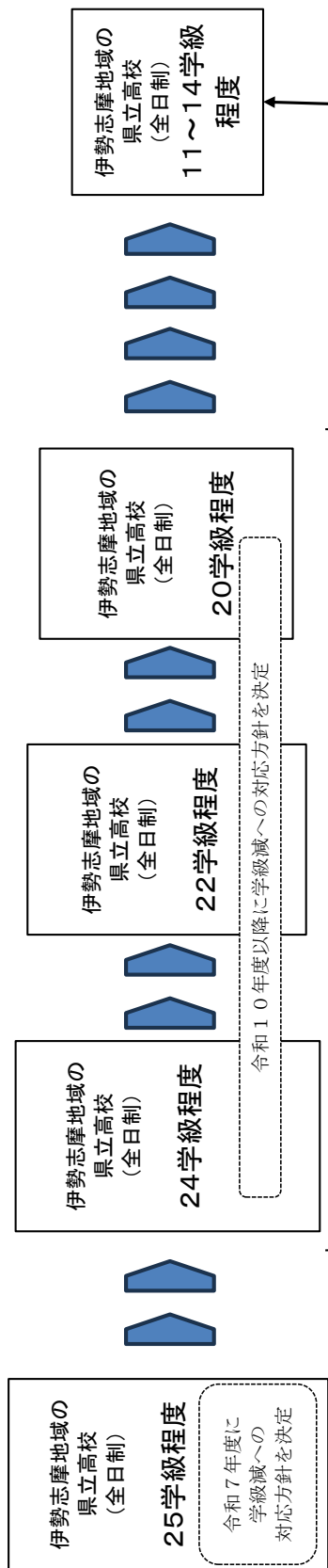
令和22年度までの伊勢志摩地域の県立高等学校（全日制）の総学級数と当協議会の協議について

資料15



28学級

宇治山田高校	(普4)
伊勢高校	(普7)
伊勢工業高校	(専4)
宇治山田商業高校	(専4)
明野高校	(専4)
南伊勢高校	(普1)
鳥羽高校	(総1)
志摩高校	(普1)
水産高校	(専2)



令和 7 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

令和 7 年 月

1 これまでの経緯

(1) 令和 6 年度までの経緯

伊勢志摩地域では、平成 17 年度から「少子化などの社会の変化が著しい中、高校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備する」ため、協議会を設置し、協議を続けてきました。

こうした中、「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、令和 4 年度には、地域の中学生と保護者を対象としたアンケート調査の結果も踏まえながら検討を重ね、令和 5 年 2 月に協議会のまとめを策定しました。この中で、「令和 3 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和 19 年度には 18 学級から 21 学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の 9 校 10 校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」であることと、「令和 6 年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、さらに小規模化が想定される高校の学びを支えながら、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましい」との方向性が示され、その上で、「南伊勢高校については、令和 5 年度に南勢校舎の全生徒数が 10 人程度と見込まれ、今後も生徒増が見込めない状況であるため、令和 6 年度から南勢校舎を募集停止とすることはやむをえない。」との方向性をあわせて示しました。このことから、令和 6 年度には南勢校舎が募集停止となりましたが、南勢校舎に在籍する生徒と度会校舎に在籍する生徒との協働的な学びが一層進められました。

令和 5 年度の協議会においては、令和 4 年度にまとめた「現在の 9 校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」を踏まえ、引き続き、当地域の高等学校の学びと配置のあり方について協議し、「令和 5 年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」を策定しました。このまとめでは、令和 8 年度の 1 学級減、令和 10 年度の 3～4 学級減、令和 13～15 年度の 3～5 学級程度の学級減に対し、令和 10 年度の学級減への対応については令和 7 年度までに、令和 13～15 年度の学級減への対応については、令和 10 年度までに、伊勢志摩協議会としての方向性をまとめる必要性が示されました。また、その協議を進めるにあたっては、学校個別ではなく、当地域全体を見渡して、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点が重要であるとされました。

令和 6 年度の協議会では、当地域の第 1 学年の総学級数が令和 7 年度入学生の 29 学級と比較し、15 年先の令和 21 年度には 14～17 学級程度減少し、12～15 学級程度となることが見込まれる中、引き続き、令和 4 年度に策定された計画や「令和 5 年度までの協議（今後の学びと配置のあり方について）」を踏まえ、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の視点で、15 年先の当地域の配置の姿をイメージしながら、その過程である令和 13 年度から 15 年度頃までに想定される断続的な学級減へのより具体の対応について、さらに協議を進めました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月）より

これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、生徒の個性と能力を伸ばしつつ、予測困難な時代を豊かに生きるために必要な力を育み、持続可能な社会の創り手を育成することが求められている。そのため、生徒一人ひとりの興味・関心を高める教育に加え、協働的な学びや学校行事、部活動等を通じ、多様な考え方や価値観にふれ、互いに協力しあったり、切磋琢磨したりしながら、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 平成 29 年度から地域の協力を得て取組を進めてきた 3 学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和 2 年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で 1 学年 3 学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 1 学年 3 学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい 県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 入学者が 2 年連続して 20 人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

【参考】「令和 4 年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」（令和 5 年 2 月）より

今後の伊勢志摩地域の高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会の考え方）

- これからの時代を生きる伊勢志摩地域の高校生にとって、自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力の育成とともに、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる多様な学び、学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び、地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び、それらの学びの質を高めるための 一人ひとりへのきめ細かな関わりが必要です。現在、当地域における高校の 1 学年の総学級数は 32 学級ですが、令和 3 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和 19 年度には 18 学級から 21 学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の 9 校 10 校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要となります。

- 今後、令和 19 年度までの 15 年間における伊勢志摩地域の高校の配置と活性化方策については、この期間の生徒の減少状況をふまえ、当地域全体を見通した具体的な検討を進めるとともに、必要に応じて、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、中学生への事前の周知についても検討することとします。その過程にある令和 6 年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、さらに小規模化が想定される高校の学びを支えながら、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいと考えます。

南伊勢高校については、令和 5 年度に南勢校舎の全生徒数が 10 人程度と見込まれ、今後も生徒増が見込めない状況であるため、令和 6 年度から南勢校舎を募集停止とすることはやむをえないと考えます。募集停止後は、引き続き南勢校舎に在籍する高校 2、3 年生の生徒が度会校舎の生徒と共に学ぶ機会を増やすとともに、南勢校舎を活用して通信制高校のサテライト教室を設け、学習支援の環境やこれまで培ってきた地域での学びを提供することについて、ニーズ調査や研究を進めていくことが望ましいと考えます。

【参考】「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」の概要

- 現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しい
- 各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましい
- 進学ニーズに応える普通科高校は、8学級規模が望ましい。やむを得ず学校規模を縮小する場合、6学級を下回らないよう一定規模を維持
- 部活動の活性化の観点から4学級以上が望ましい
- 1学年1学級となる3校の役割や教育実践を注視しながら、統合も含めた今後のあり方について議論
- 水産高校は引き続き活性化に取り組む（現計画期間）

【参考】令和6年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会～主な意見～

- 中学校卒業生数の減少を踏まえると、統廃合はやむを得ない
- 15年先を見据え、逆算して学級減への対応を検討
- 「進学ニーズに応える普通科高校は、6学級を下回らない」と「部活動の活性化の観点から4学級以上」の視点が大切
- 学びの選択肢の維持、多様な子どもたちのニーズに対応
- 現場の声を踏まえつつ、抜本的な再編も検討
- 通学時間・距離や校舎の老朽化への対応も考慮
- 県内唯一の学科を有する水産高校と総合学科の学び
- 高校の特色化・魅力化と情報発信
- 入試制度や学級編制基準、教員の配置基準の動向も考慮

2 当地域の県立高校を取り巻く状況

2 今年度提示した資料を再編・集約します

- (1) 中学校卒業生数の推移と予測
- (2) 学校別・学科別学級数の推移
- (3) 中学校卒業生の進学状況
- (4) 県立高校（全日制）卒業生の進路状況（R7.3卒）
- (5) 県立高校（全日制）への通学状況 など

3 令和7年度の協議

3 会議後に追加していきます

- (1) 第1回（令和7年7月〇日）

～～～について協議しました。

- (2) 第2回（令和7年9月〇日）

～～～について協議しました。

- (3) 第3回（令和7年11月〇日）

～～。「令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ」を策定しました。

4 令和7年度の主な意見

4 会議後に追加していきます

5 今後の学びと配置のあり方について（当協議会の考え方）

（基本的な考え方）

- 15 年先の学びと配置の将来像について
- 地域の子どもの育みたい資質や能力
- 地域で大切にしたい教育

（再編する上で大切にしたいこと・生じる課題）

- 学校規模に関すること
- 部活動に関すること
- 学びの選択肢の維持に関すること
 - ※普通科・普通科系専門学科
 - ※専門学科
 - ※総合学科
 - ※定時制課程、通信制課程
- 通学距離・時間に関すること
- 施設・設備に関すること など

（今後の協議の進め方）

- 協議を進めるにあたって大切にしたい視点
- 次期計画策定の動き
- 方向性の取りまとめ
 - ※令和 10 年度の学級減への対応の方向性
 - ※令和 13～15 年度の学級減への対応の方向性

5 協議内容を整理し、 記載します
